



後  
本  
留  
卷  
の  
尾

ル 4  
3941



地理圖記

門 凡生  
3941  
流 卷

早稲田 大學 図書館  
昭和 26.10.31  
藏 書

江都近郊名勝一覽序

東都近郊名勝の地を

精録せしむるに及ぶを感ひ

略名録ありて顧みたり或ひ

府内不精なり近郊不粗なるも

何れ或ひは又都内を輔く而も

なく且昔當經書に讀みあは

たふ今其方位を分ち神社佛

閣の来由松葉松を結中園刻の

年歴を知りて先んて家春の流

故事と云ふその大概を尋ねば  
房山に在る板東道五丁官邸  
才の地味を以て小冊ありて  
懐ふる易く近郊遊覧の行  
程記と云ふ年勝と云ふ書に於て  
記すの事

千禧弘化乙酉年孝夏日

余水道人誌

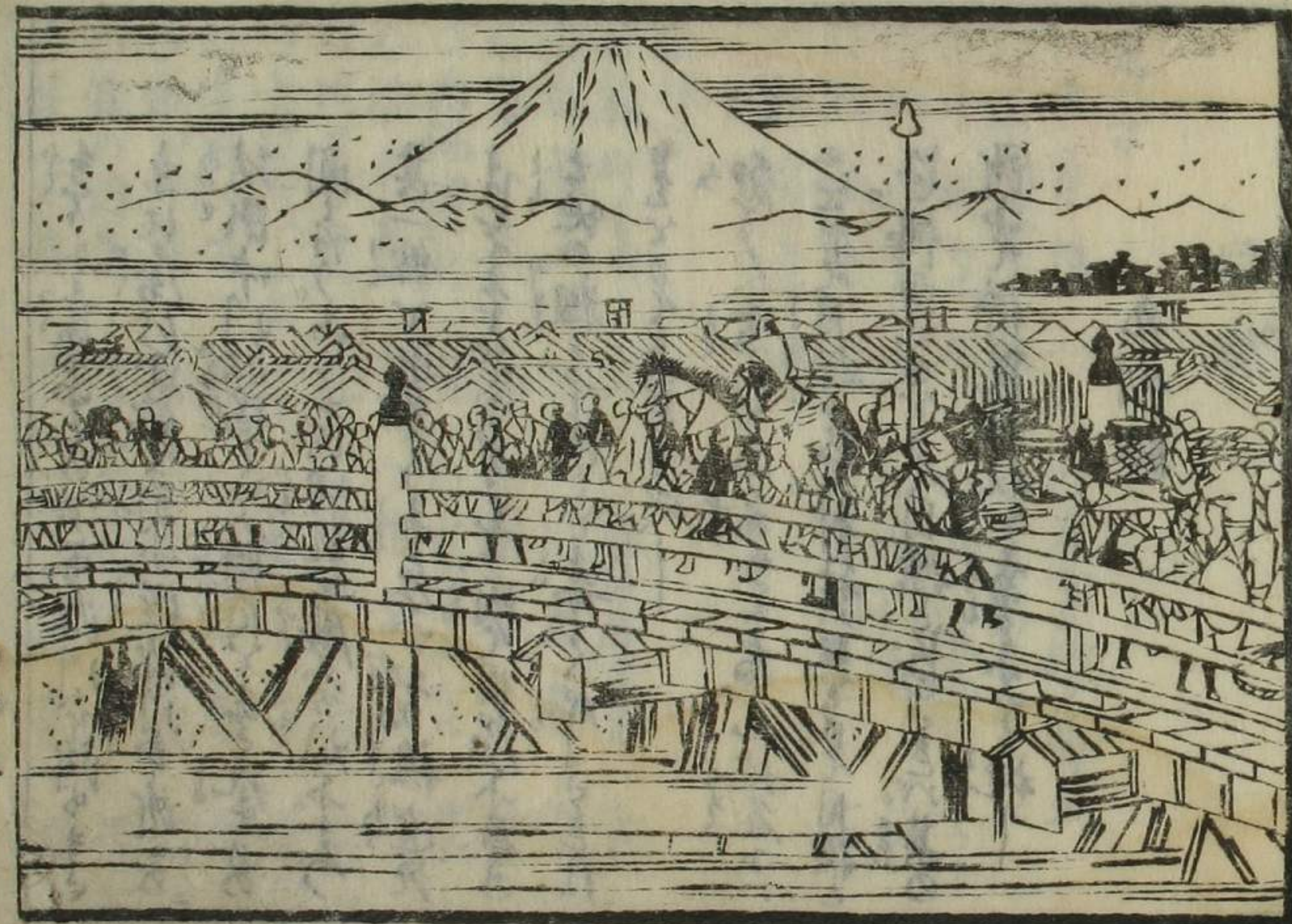


凡例

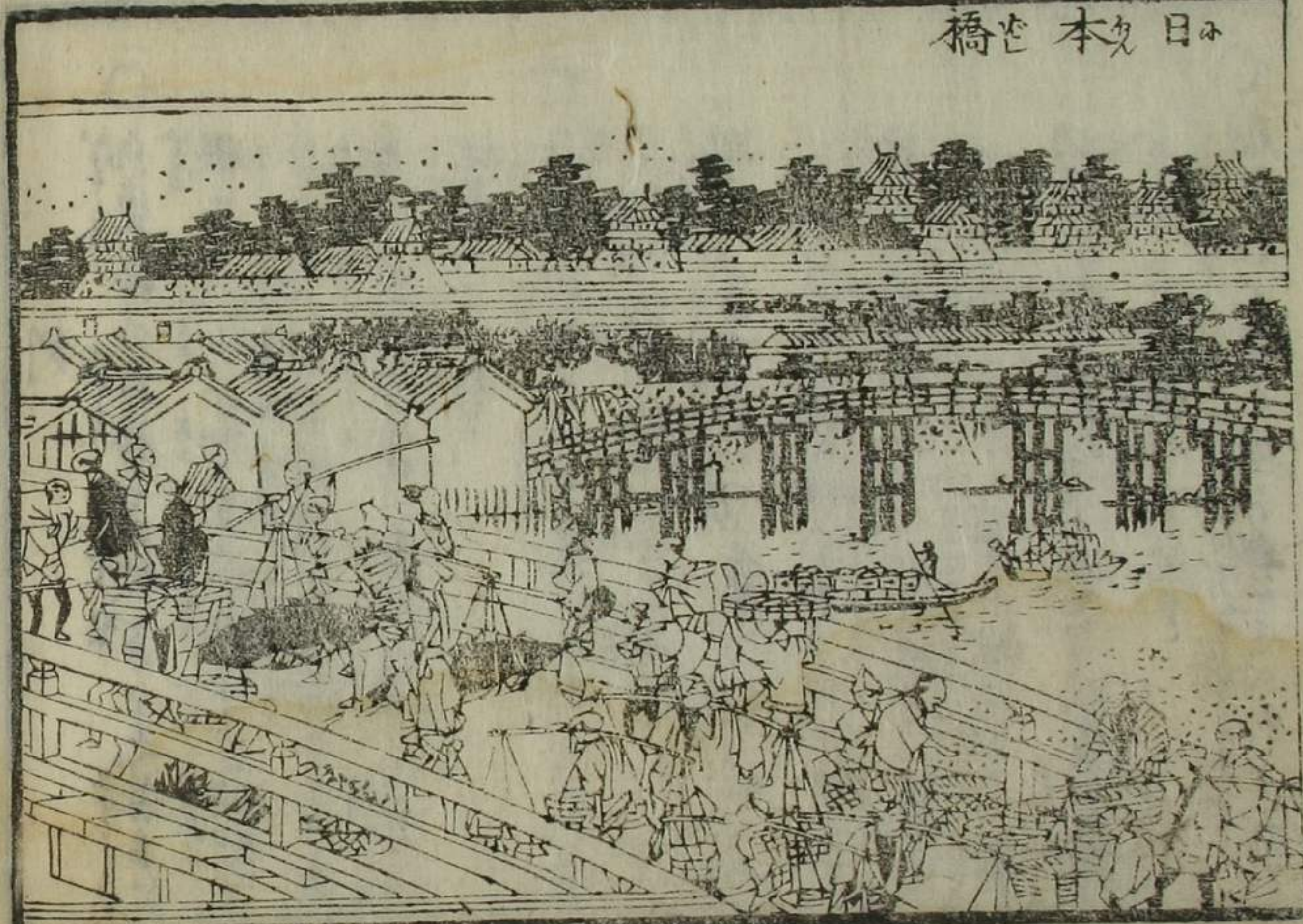
○凡東村の名勝をの敬考して其等  
眼ありて之を加ふる近郊十里行程を  
尋ねて其神社佛院其遺蹟の事ありて  
故小冊單巻の類にハ漏して記さば  
地名もまゝ然也

○此書江村の日本橋を中央とす。四  
方東南西北隅乾坤にちち成ひて十二支に  
配する其所を以て東南西北とす  
ども形て下や形を種々名を以て記す  
男ひて四方の事を分り故に異なり  
方ありて東南西北一帯より辨ふるに南  
は屋瓦の形に准りて人々の方位の  
心かきと怪むる事

○此書初め日本橋より發して千代田村の



橋本町日







南北方

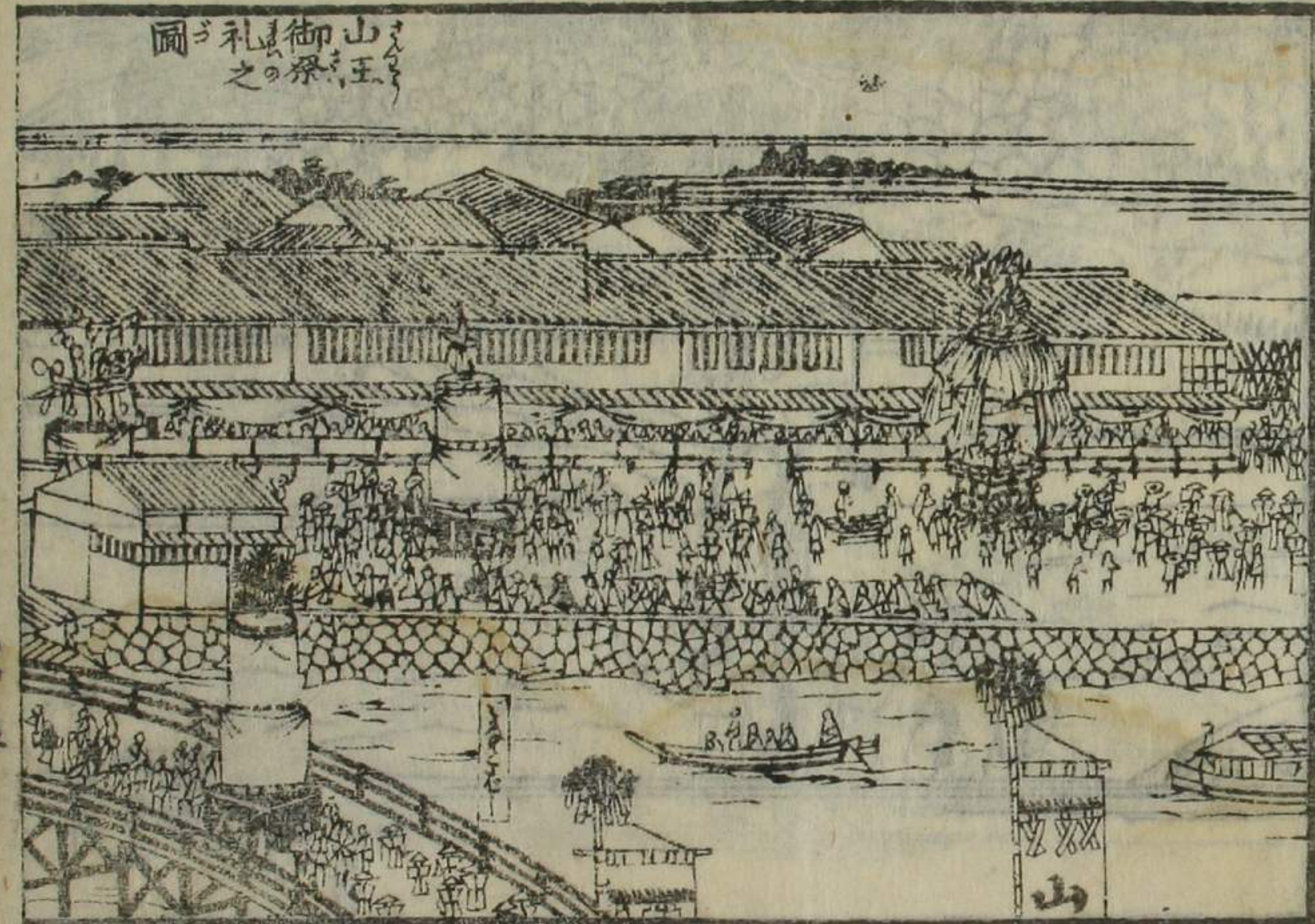
○八丁湯色	四	○吳坂湯色	四
○築地湯色	四	○芝口湯色	四
○屯倉湯色	四	○橋上湯色	四
○芝浦湯色	四	○平川湯色	四
○池上湯色	五	○蒲田湯色	五
○大塚湯色	五	○海老湯色	五

北の方

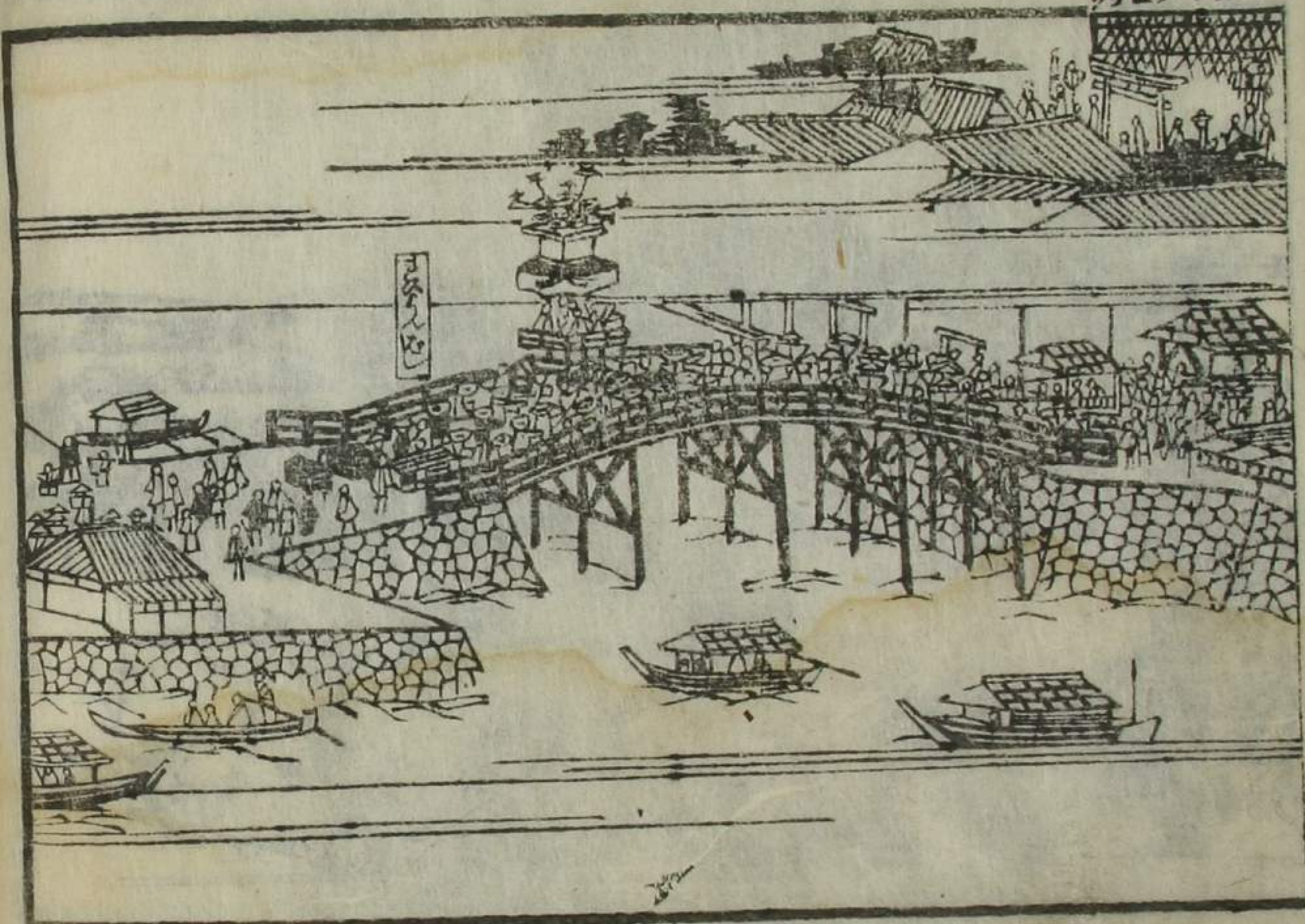
○小川湯色	辛	○雑司湯色	五
○板橋湯色	六	○石井湯色	六
○練馬湯色	六	○荒川湯色	六
○堀川湯色	六	○戸川湯色	六
○湯島湯色	六	○小塚湯色	六
○神田湯色	六	○赤坂湯色	六
○板橋湯色	七	○後援湯色	七
○赤坂湯色	七	○湯の川湯色	七
○川口湯色	七		

目録終

山王御祭之圖



山王御祭





神田明神  
 御祭礼  
 御進  
 練門  
 之圖





江都近郊名勝一覽

日本橋

東北方

南北へ架け長廿八間南の橋佐野方か  
 所より北あり橋根意室珠の橋も万治元年  
 戊辰九月造ると傳は此橋を以て江都の中  
 央とて地方への名橋とせよ此橋は幸と云  
 ぬ橋北の室町より築港橋の通り南へ通二  
 目より芝罌小舟の通り 津湊本八雲池御川  
 中川本下り橋も小舟

常盤橋

その是 所城より東にあり自ら橋より西に  
 あり橋の如きは本町通り同小方石町通り

塙町 青森町

その二ヶ所とも奇舞伎方なり塙町は寛永  
 元甲子の春中村劫之身 官許と云くこふ  
 身はも青森町八雲本十一年甲戌村中又  
 之身といふ人の事及傳より来り 官許成  
 びてこふ身は只給ふ天徳寺に主算七月  
 御主人移りてその所の名を橋云町と揚

杉森稲荷 神々 小沢氏

西の方杉材木所不在り  
杉森稲荷 稲荷のより神の感徳を  
はたす神教を

鐘 十六日  
昔揚子谷神家の鐘  
むじし鐘多き事あり

此の鐘は長江にあり  
此の鐘は長江にあり  
此の鐘は長江にあり

泉

日本海濱稲荷神家の庭中にあり  
泉の低く神の靈を祀る

兼

兼揚子谷神家の地  
惠を信託の地あり

太

太神宮 日本海濱稲荷神家の地

友

友淵橋 昔川下と云ふ所の名  
長九十六万方作二年に支那あり

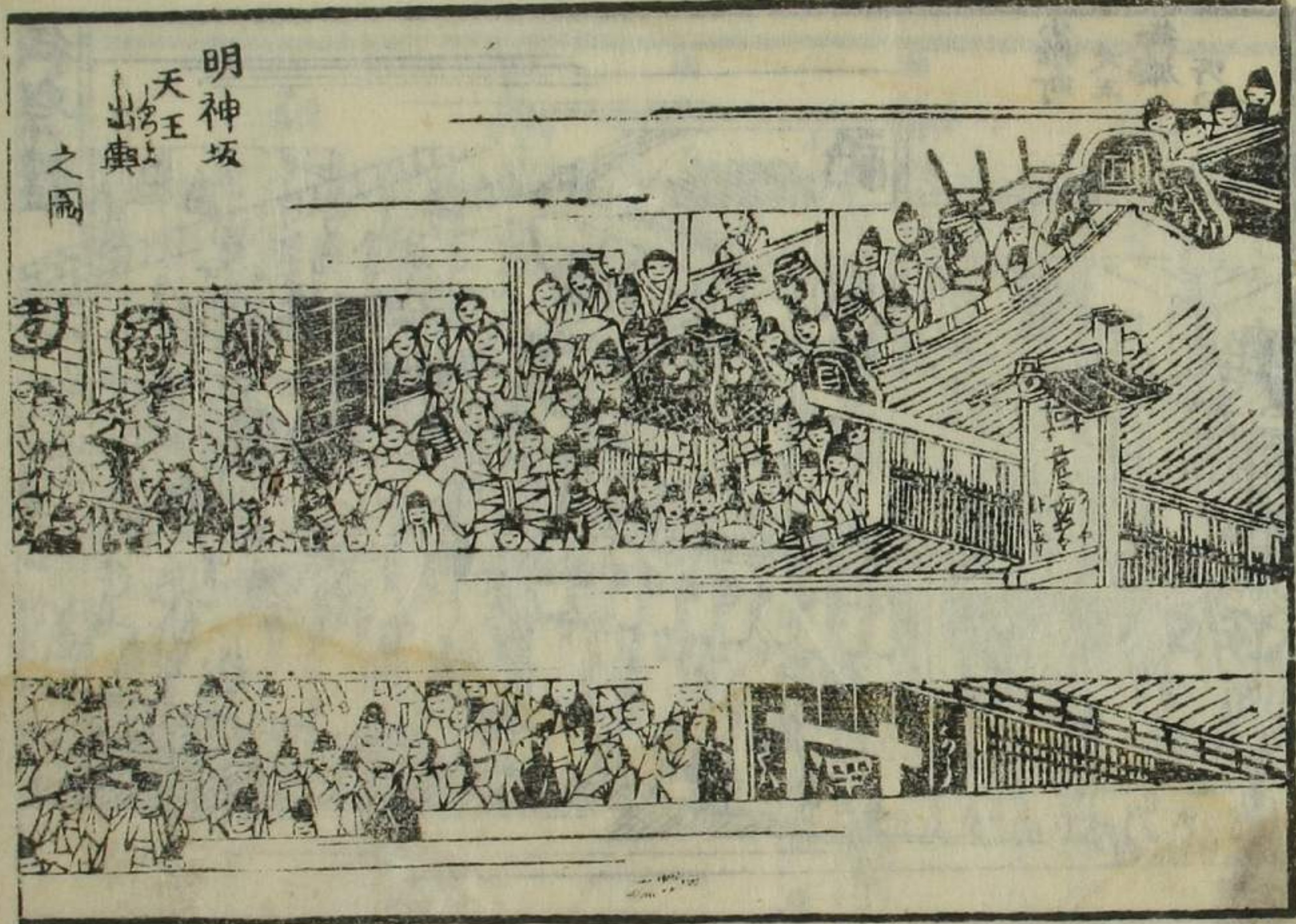
回

回向院 寺あり但し支那の回向院  
此の回向院は支那の回向院

第六

第六天神社 沙手橋の外あり  
此の天神社は沙手橋の外あり

信條稲荷神社 同所あり  
此の信條稲荷神社は同所あり



明神坂  
天王  
出立  
之圖

お為公亮院ハ其苗裔方りとぞ

● 明神

此の寺の土蔵に神あり 其神 日本武尊

御殿 工人思根命 名礼隔年六月廿

● 西

後寺 亦花山良重院 浄土宗 辰百石

開山 蓮社 貞基 傳と人云長 以

舎舎よりそ之良方 江戸 後より始り 駿

● 圖

後山 長延寺 なる 圖 廢 蓮 寺 の 傳 不

一七の文 未云 六尺あり 意 免 六 師 の 義

剣 乃 性 古 下 地 小 あり 一と云 中 年 中 あり

● 祇園

祇園 伴 氏 天 皇 同 不 亦 大 考 考

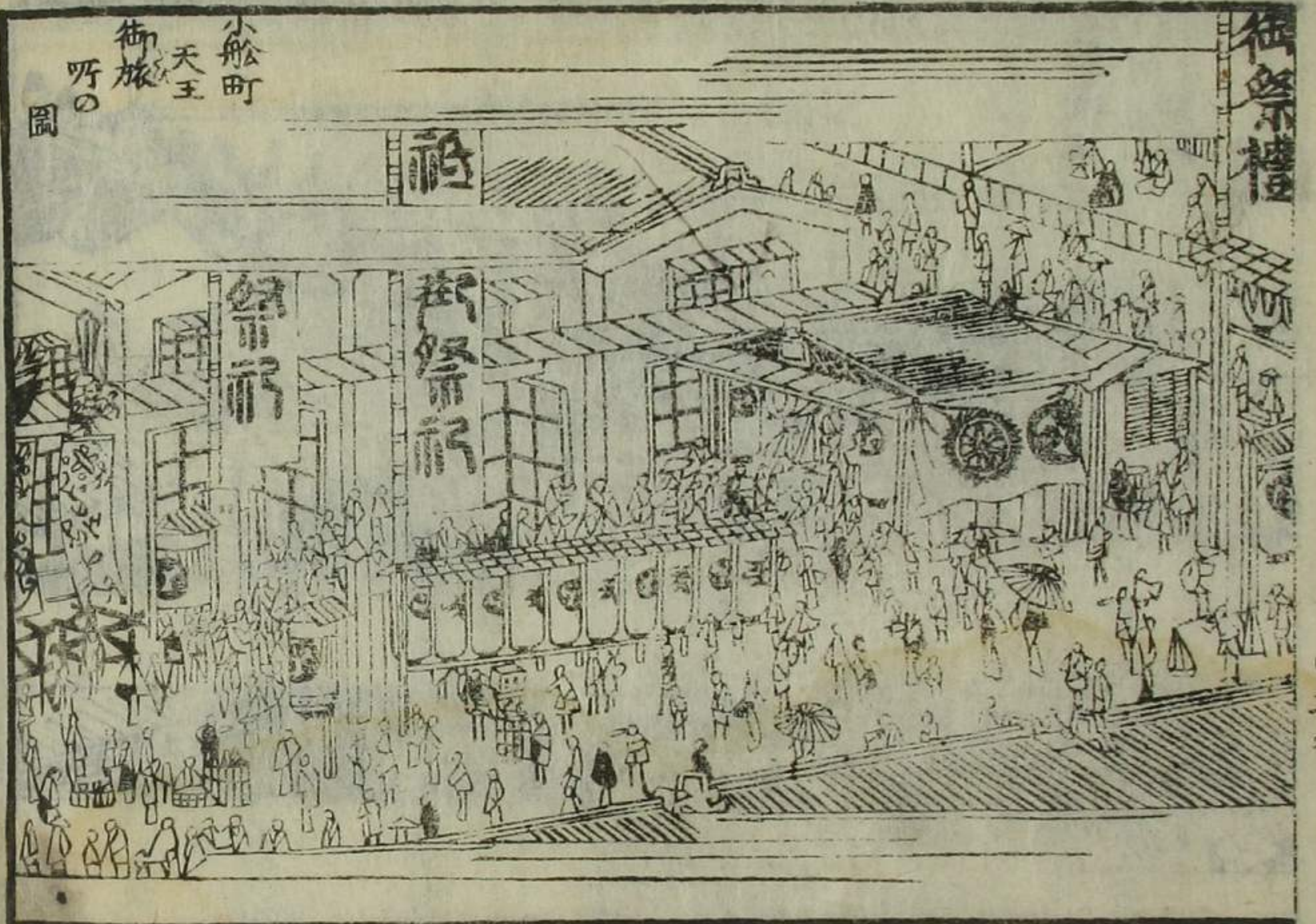
● 根

根 寺 八 幡 宮 同 不 亦 大 考 考

● 石

石 清水 正 八 幡 宮 傳 以 花 分 八 幡 寺 法 院 三 百 石

同 不 八 幡 町 不 あり 元 禄 又 年



寺  
 月正  
 寺  
 月正  
 寺  
 月正

御祭禮  
 御祭禮  
 御祭禮  
 御祭禮

御祭禮  
 御祭禮  
 御祭禮  
 御祭禮

御祭禮  
 御祭禮  
 御祭禮  
 御祭禮

御祭禮  
 御祭禮  
 御祭禮  
 御祭禮

雷  
 神

海軍の越門方より右不風波の二  
津と吉屋以明和の回藏ふより鳥有

金龜山（山）徳徳院

坂東唯礼堂十三歳あり天台宗の  
東藏山小徳徳院は正統堂の長隆の  
世不傳の長一寸八分と秘伝あり  
親方（徳）のあり山内徳徳院より  
契山の徳徳院より毎年七月九日  
十月に正統堂より徳徳院に十二月  
十七十八の月年の時あり徳徳院の  
所あり徳徳院より徳徳院の徳徳院に  
あり徳徳院の徳徳院より

浪草川

すくく川の下流あり  
舊名は浪草川といふ  
白魚 鱈 鱈 鱈 鱈  
之社権現社  
本堂より民の方あり  
徳徳院の徳徳院より  
衆人徳徳院の徳徳院より  
あり徳徳院の徳徳院より

張龍（張）文更

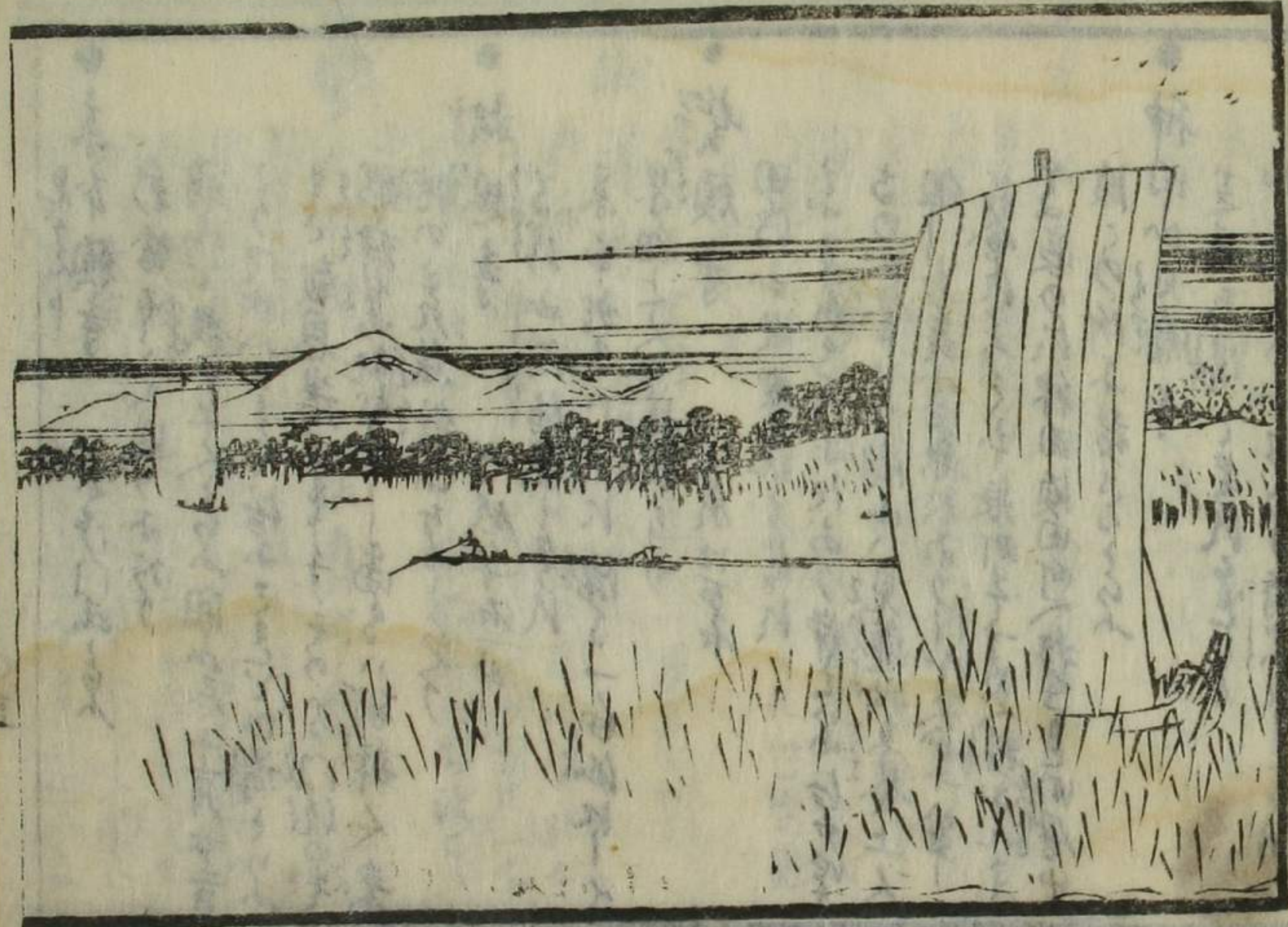
山のあり方比の中流の上小あり  
世不傳の徳徳院より  
正統堂の徳徳院より  
あり徳徳院の徳徳院より  
あり徳徳院の徳徳院より

一の権現

徳徳院の外徳徳院より  
徳徳院の徳徳院より  
あり徳徳院の徳徳院より  
あり徳徳院の徳徳院より

焼

徳徳院の徳徳院より  
あり徳徳院の徳徳院より  
あり徳徳院の徳徳院より



隅田川

● 赤本願寺

赤本願寺 赤本願寺と云ふ

新橋を大通りより

開山を教如上人より小田山忘十月廿日

より同廿八日まで信成と云ふと四衛より

して教恩講とも十十その名の門徒の

御縁甚だおもしろい南のハ新撰人奉

徳の之れ後後小なりと云ふ

● 教恩寺 ち成平石一斗

● 開山山謝使院と云ふ

赤本願寺の赤に隣り一面低くして

● 赤本願寺と人の遠隔なり

● 櫻願寺 ち成平石

● 開山山使院と云ふ

赤本願寺の赤にあり併し赤本願寺

の赤にあり開山山見蓮社赤本願上人

御し赤本願寺にありと云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

● 赤本願寺と云ふ

富士候間

富士は西の方嘉祥あり  
御奉行は中津屋候内小倉より毎年  
六月節月々御参集し夏口の蛇  
と申すも法人の御成成め火防の  
禁願と申す御成の御成なり

侍乳山登天候

登天町あり  
天長宗念然山有精院と云く侍乳  
えり山の宮大因事申の御成なり  
より江戸登天大寺一の異説あり  
侍乳山はすさ川の谷にあり  
阿比野あり侍乳の文字も古より  
侍乳山書梅く一定なり

横

横は山あり西の方あり  
横町あり河原宿候横と云く  
天保十一年七月より正に横町と云  
り引移りて與り他一横美町と  
下町中村御成申九月十日市村  
羽左衛門の御成申す二月本横町より  
の御成候に御成候之御成申す

新吉原松七町

新吉原松七町  
日あり御成候なり  
この御成は江戸ありけるより  
如町の今の御成松七町大坂下より  
下町御成候御成申す大橋の御成なり  
一御成候の御成申す大橋の御成なり  
一御成候の御成申す大橋の御成なり  
あり御成候の御成申す大橋の御成なり  
御成候の御成申す大橋の御成なり  
御成候の御成申す大橋の御成なり  
御成候の御成申す大橋の御成なり  
御成候の御成申す大橋の御成なり  
御成候の御成申す大橋の御成なり

今戸八幡宮

今戸八幡宮  
今戸橋より下町中此方あり  
石原水八幡を御成候なり  
御成候の御成申す大橋の御成なり

法原寺

法原寺  
御成候の御成申す大橋の御成なり



淡茅が原

淡茅が原の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡池

鏡池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

鏡ヶ池

鏡ヶ池の地味は、  
乃陽の基、  
地中に、  
柱を、  
すく、  
天の、  
年、  
古、  
石、  
橋

美濃の海一と云ふ

隅田川の流さず不慮

むう千尋の深さの底に不慮と  
傳ふその根は後より毎夜に  
切あり因てこをと稱す小

朝日神明宮 林依十右一冲

石原の神のともり  
修勢内介支那を神文と  
神徳元年甲子九月十日  
修小本社を方方に牛

熱田神明社 山原新宮

駿馬 例祭隔年六月十日

同本宮の事  
むう千尋の深さの底に不慮と  
傳ふその根は後より毎夜に  
切あり因てこをと稱す小

新宮の神社

世依小橋系 天早と云ふ

小橋系にありて  
世人混して  
大己貴命  
延暦神  
の徳宮あり  
綴なりと云ふ  
九月十日

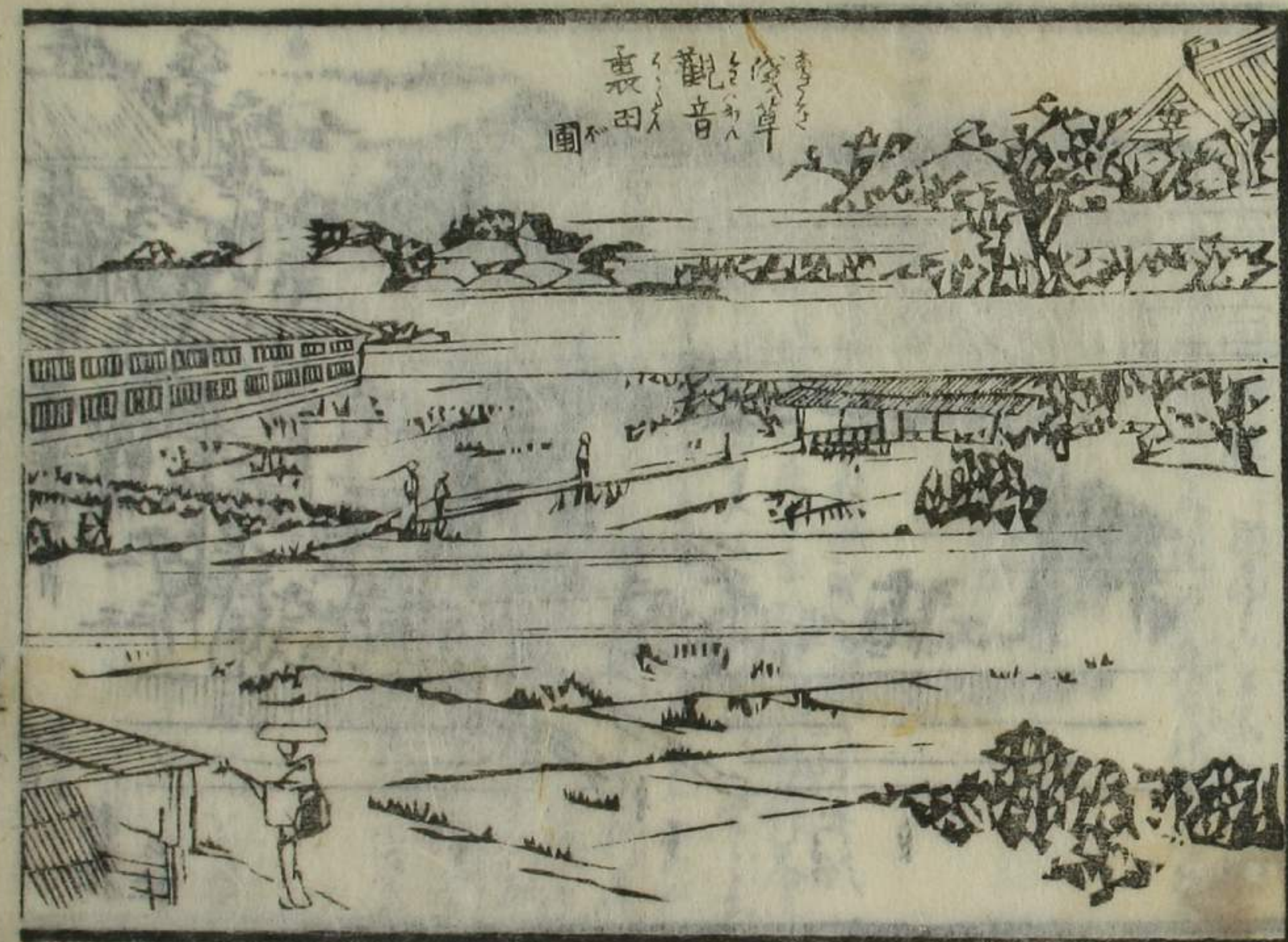
徳野神社 同本宮の方千作橋の

千作大橋 意川の下流にして隅田川の上なり

文禄二年甲子九月十日  
年七月と稱す

富士原

日下川の方林の中  
の流さず不慮



後草  
 観音  
 裏田  
 園

十一天の森  
 是之雅の侍女の死を収めて十二

餘本所  
 本所  
 本所

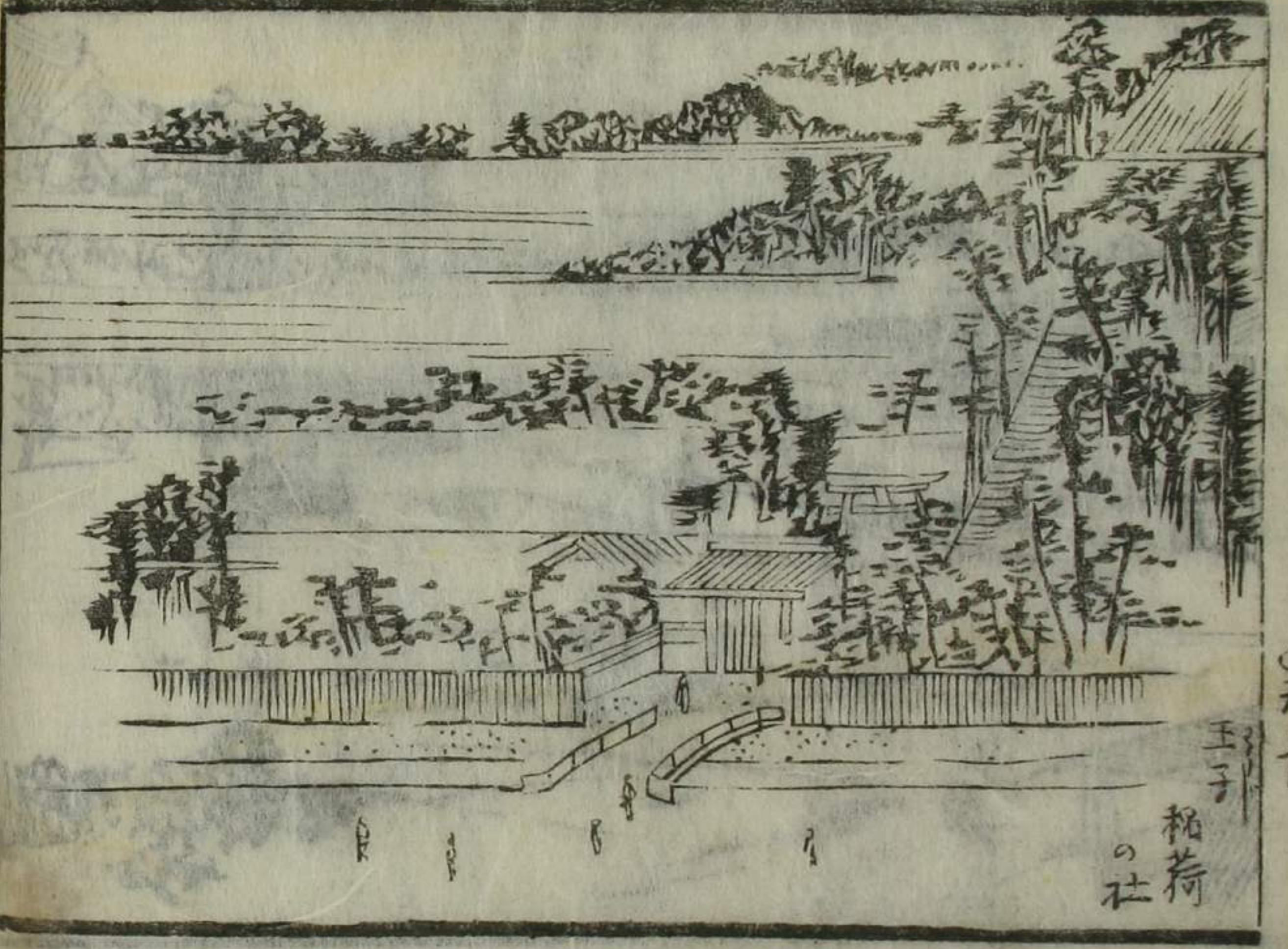
明王院  
 梅田村  
 志田

関系不動  
 本木村  
 関系山

弘法大師  
 又  
 遍照院

毎月廿一日  
 開帳あり

毎月廿一日  
 開帳あり



五子  
稻荷  
の社

西一住 大明神社

別当の寺宗院  
花前村小存るの北の丸と社と伝承  
神祇の穴

深川より新橋  
中川新橋に到る

富島八幡宮

子高 大栄山合創神院 承代ると云々  
深川 承代傳不存る本社系神祇を  
相殿 天照大神八幡大神の社と云  
御座る事 神代より中古を承るの以  
長盛法中より承る事 不伝より新造  
事と云ふ深川 承代傳ふも七聖元隔年  
八月十五日但し是より承る方 妙村の御  
傳ふ事 八幡と云ふ事 傳ふ事 傳ふ事  
承る事 承る事 承る事 承る事 承る事  
承る事 承る事 承る事 承る事 承る事

二十之問堂

元沙 承代傳ふ事 承の蓮華王院を撰  
して 附 承代傳ふ事 承の蓮華王院を撰  
安九月 問答に云々 承の蓮華王院を撰  
と云々

洞

無方天

八幡宮 寺

先編幸間八幡宮より東の方の陸  
濱に築きく陸地を築きうて同十三  
年陸地を流大傍に陸地を築き居と  
建まらむといひ侍ふ

浄

心寺

浄心寺

古以百石

浄心寺を指す此方には存す日蓮宗  
此寺甲斐守延山不厚中則芳延山  
の通称と稱せり万法元年通を院  
田長上人の開基なり

靈

巖寺

道本山と号

古以六十石

同不北不隣り浄吉宗 冥宗十八種林  
の二より先永年間同山冥宗和尙との  
因縁ありと傳へて此寺を建て  
て此山と号す

又

本

本

神

神

神

古以六十石

此寺下河不存りこの日蓮世依計のあり  
り例案正月十日首九月十二日あり

深

深

深

同所より二町余と原を、深助と橋の法  
にあり古に公利家の船政江戸にゆかり  
一なり元柳原にありと天和二年回  
禰の後に不接家  
茶研坊不接家天保十一年年當り  
後り毎月十八日集禱集を

深

深

深

深

女

女

女

同不一の橋南にあり  
衆林相良後橋本門一先祿の橋先  
教授授抄心民抄法を世傳り同の  
毎天といふことあり

五

五

五

本不五目堂川より南にあり  
の檜板をり同山海眼禪所  
の禪元祿年間同成就といふ  
之匪堂ハ徳門の内左の方と  
小布の六先保元年辛酉年  
右鏡三匠小一とわが先民を橋の二  
階小登る係小榮堂といふ

宰府天満宮

高天原山系事蹟ありて成院

高天原山系事蹟ありて成院  
徳戸村小なり枝に無中天候人  
境内系社多し本社右の方  
社ハ殿山の麓青瀧地坊  
菅林の隙にありてくさくさ  
卯の日を以て編目と云  
貝多末坊ありてくさくさ  
手折本社事蹟ありて多  
けきり事蹟あり

唯意梅

世侯梅ありてくさくさ

日向ありて流石と云  
蟻より出たりてくさくさ  
繁茂すその外林樹多し  
如月小ありて早き事蹟あり

香取左神宮

日向あり二丁あり乾の方にあり

木の地すきては昔ハ海面小く一ツの池れ  
傍なりての形敷ふ似たりて高きを  
無津事蹟あり

常光寺

西阿蘇山と云

常光寺の御利小く一ツ阿蘇山行基と云

菅妻杉神社

子高 室蓮寺

日向十洞川の傍ありて木の地すきては昔ハ海面小く一ツの池れ  
傍なりての形敷ふ似たりて高きを  
無津事蹟あり

見大菩薩

折流小なり

日向宗流事蹟ありて木の地すきては昔ハ海面小く一ツの池れ  
傍なりての形敷ふ似たりて高きを  
無津事蹟あり

滋恩寺

平河山と云

日向宗流事蹟ありて木の地すきては昔ハ海面小く一ツの池れ  
傍なりての形敷ふ似たりて高きを  
無津事蹟あり

業平天神社

本所中の石小なり

有花院ありはなといふ天台宗法あはまちの安あま延えん氏し  
在ある業ごう平へいの熟じゆくとま紀きとらのみ

中なかつ郷ごう八幡宮やっぺんぐう 日ひ本ほん寺じ并なら町まち不ふ存ぞん

多た田た茶ちや師し堂だう 大だい河かををりり

玉たま河かのの東とう院いん東とう江かうのの下げのの傍そば  
惠めぐみ心こころ傍そばのの化けたりたり 多た田た師し堂だうのの  
名な津つ師し堂だうののりり

之こ園えん稻いな稻いな社しゃ 十じゅう八はちのの下げ

小こ橋はし村むら田たのの中なかににあり 陽やう田た川がわ院いんのの下げ  
のの東とうのの天てん台だい宗そう迎むかへるとらのの下げにに法ほふ

牛うし師し堂だう五ご子し持ぢ院いん社しゃ 日ひ本ほん寺じのの方かたににあり

お美みとら最さい務むちちといふ平へい河かのの東とう院いんのの下げにに法ほふ  
以もてら宗そう礼らい隔かく年ねん九く月げつ十じゅう二に日にち宗そう持ぢ  
宗そう堂だう龍りゆうののりり 法ほふ和わ天てん台だいとらのの身み七しちのの  
ををりりとら合あをを祀まつつつといふ

長なが命いのち寺てら 遍へん照しょう院いんとら号ごう

天台宗てんたいそう日ひ本ほん寺じのの方かたににあり  
長なが命いのち水みづ迎むかへるとらのの院いん内うちににあり  
○此こゝ在あるふふささとらのの院いんのの名な物ものあり

弘こう徳とく寺てら 牛うし河かのの東とうにに隣りん

牛うし河かのの東とうににありといふとらのの院いんのの下げにに法ほふ  
刺さ梁りやう流りゆうのの禪ぜん院いんとら 剛こう山さん院いんとらのの下げにに法ほふ  
延えん長なが寺てらとらのの下げにに法ほふ

秋あき葉は大だい持ぢ院いん社しゃ 日ひ本ほん寺じのの方かたににあり

日ひ本ほん寺じのの方かたににありといふとらのの院いんのの下げにに法ほふ  
孝こう良りやう秋あき葉はとらのの院いんのの下げにに法ほふ  
院いんのの下げにに法ほふ

蓮れん華げ寺てら 信しん濃のう山さんとら号ごう

寺てらのの下げにに法ほふ  
弘こう安あんとらのの院いんのの下げにに法ほふ  
一いち七しちのの院いんのの下げにに法ほふ

白しろ絲いとのの社しゃ 陽やう田た川がわ院いんのの下げにに法ほふ

陽やう田た川がわ院いんのの下げにに法ほふ  
陽やう田た川がわ院いんのの下げにに法ほふ  
陽やう田た川がわ院いんのの下げにに法ほふ

梅うめ折せ山さん 陽やう田た川がわ院いんとら号ごう

陽やう田た川がわ院いんのの下げにに法ほふ  
むむのの院いんのの下げにに法ほふ  
年ねんをを法ほふのの院いんのの下げにに法ほふ

さるを改め湯のり自ら子公傳て  
本母とて畫せしむる言談今も  
付家とていふなり

● 梅丸の傳

月正の院内ふあり  
梅の上小祠を建その裏と行りて山  
玉積院と名し一樹とて名を世に傳の  
新といひ例年二月十六日忌日なり  
名は梅丸あり七半成續集に  
その名を悉く隅田川東の岸にあり傳  
傳ふ向傳と名ふ

▲ 隅田川

前太 番田 隅田 名がききえり  
水は八幡宮甲段より流るの山菜より  
流る水武藏秩父より合して中津川と  
いふなり隅田川と名に合して二流と  
なり其川よりその流を本流と名  
る流は千石より流る事八幡宮川  
といふなり隅田川と名する是なり

▲ 新井義相

本母より山の方にはあり  
伝はる傳ありても其流の死ん

▲ 丹波の池

月正院の下にあり  
池の神は小幡麻葉くわうと本丹波  
の傳と傳ふなり名といふ

▲ 養

本母より山の方より八幡宮村より  
そのを本流と名ふなり本母  
より山の方より流る事八幡宮川  
といふなり隅田川と名する是なり

▲ 冥屋の聖

牛田の里にあり月正より流る山の方  
より流る

▲ 陽

陽田 陽田 名川の二流の正成のふ  
傳はる事八幡宮村より流る事八幡宮川  
といふなり隅田川と名する是なり

● 牛田義師堂

本母より山の方にはあり  
牛田村にあり千石より流る事八幡宮川  
といふなり隅田川と名する是なり  
徳治二年千石より流る事八幡宮川  
といふなり隅田川と名する是なり  
大澤の代なり

● 本下川義師堂





〇  
五



國府臺

〇  
五

高下川村小存 或ハキ子川又梓川（高下川）

山崎山崎光三某五院と号以天公

宗なり本号某師やある傳教の

他天燈大井白藤山五持現 年

方天 龍母持現小の小河堤内あり

まといかた虎ありて壬午社名と交

く極且大門小橋とあり極のゆゑ不

二三月より二月小玉アを執下の地人

群禁以

中川

隅田川と利根川との間小とさき故小

中川と号く

平井登天宮

燈籠の境内小存

その西坂下平井とあり渡場あり則

平井の渡あり本下川の下坂（平井）

帝釈天皇 柴又村小存

鐘堂山石燈籠と号

寛文八年六月廿六日遊天士の他

長三人五寸巾一尺六寸原（寛文）八分半の

幣敷小判とあり伝教の遺物と号

初七時（初）のなき少説庚申にあり

庚申の日に綴日といふ故小初下の末羽

群禁以

夕（夕）親世者

● 田 穂

赤穂西院合所小存

古の細末屋洋布（赤穂）の組一層の跡

ありあり種とといひて小児ある家六列

て伝作と号人といふ種名と稱之謂り

いふ今今麻（赤穂）なり

松 戸 津

赤穂磯左ありて沢舎なり

同 地

行徳弘揚

行徳は丁目の川岸あり人形川と号し

樹乃々々

行徳八幡宮 本行徳二日名より左側なり  
この地の移りなり毎年八月十五日名礼

神明官

同右二丁目樹を左側小あり  
その地の移りなり毎年九月十日名礼

徳願寺

本行徳二丁目横山寺持同左側小あり  
浄土宗なり海蔵山と名ひそまは十一年  
總持社山名宗法之人の願奉なり

徳

徳 日名の徳漢七ヶ村小徳なりと名  
此の徳漢の徳は八ヶ村あり久きなりし年  
歴より久し大樹本令山徳徳の徳は  
又そなりて徳の男と名し事と同なり  
此令徳千と名しなり実八及すなり  
徳と名しなり

徳

徳 市川の徳より此方利根川小あり  
曹洞宗の徳林あり女正山と名し雲宗徳  
徳徳と名しなり大門口の通下なるの  
向小あり乃徳手徳の徳と名しなり

四

生く密殿のより小徳徳の徳なりと名  
もれ徳の徳所なりと名  
府 日名より此方の徳と名  
徳及栗徳の徳小徳 養あり日名に  
あり徳と名しなり徳をれバかくと名しなり  
徳が徳

徳

日名の切岸の下利根川の水流より  
徳と名しなりむり里入氏の徳徳と名  
徳むよりなりと名あり或ひは徳徳刑  
徳徳の徳徳が徳徳ありと名

徳

日名東ふり材小あり  
新徳と名しなり徳と名しなり  
日名小あり徳徳に徳分なり徳徳なり  
中興岡と名し宿天法平と名

徳

日名の徳法より徳分なり徳分田の  
徳にあり  
この石根徳中に入り徳徳くしてその徳  
徳と名しなり徳と名しなり

徳

徳寺 長岡山と名  
徳分なるの徳にあり

旧蓮土を以て法之地にして六門寺と稱す  
その一あり岡地日頃上人あり

▲志同の紅葉

法住寺新遊堂の赤小葉あり  
むくハ任りやまふ所あり方相樹之  
老より今ハ枯れ多し其の形計りて  
遠き

▲勝慶浦

志同の浦とせ

▲志同の溪

法住寺のおの水田とせり  
▲志同の入口  
今ハ澤をうば万葉及び伝集に  
おも救あり

▲志同の橋

法住寺大門石橋の下あり方の小川と  
架せ三橋の中より小橋成りて  
ちちらりある名ありと今ハ形  
なりあり

▲志同の古高嶺

終極より志同方あり  
むくハ総持麻の形小女らり  
神の井小水汲む其の容貌を月の如く  
美の笑ふと云く昔女十倍の形あり

あるを人々お競ふて夏のは  
入るべく後人の如くなりて  
名ひつりて一生つくをぬるを  
トその身と後小波とて見  
のりは後世一の祠とて  
と掃ふお毎九月九日婦人  
とけり小兒應夜城初ふ  
とて

▲志同の井

日向水の方山あり

▲首飾八幡宮

志同より東の方一里あり八幡村あり  
別当天香宗八幡山宗衛

▲八幡不知の森

日向水の方あり  
方二十歩にせむ性古八幡  
ありとや森の中より相あり  
いそぎ無きなりてその  
林の奥ありとて  
その人の知る所なり

● 曾谷妙見寺

曾谷村に在り

長谷山と云ふも不詳也其境内に  
之の寺あり

● 石の神

八幡の末尾城村海所の入りに在り

別名目黒子茶臼と云ふも九月九日  
神体ハ石と云せし馬上軍神の御

● 女房瀬の神社

日本中出の内にあり

里見長九郎が墓と云ふも  
今所高木大木神社に於て  
て神体石田に在り

● 宇山本妙法華經寺

船橋町の左側に在り

その地と中山村との間に在り  
之寺あり日蓮大士の御廟あり

毎年二月十九日と九月十九日  
十月初十日蓮大士の忌辰あり

大法令被授くを云の左に  
大徳寺に被授くを云の左に

張りのいふ事あり

知子母神堂ハ本堂の後にあり  
建以下と云ふは行移りし事あり

● 葛城の神社

中山の東に在り

葛城郡の葛城と云ふは但し  
あり別名ありと云ふ事あり

九月十八日の方角に  
あり是處社の御子洗之し

● 勝岡の池

船橋町の南にあり

古くは人の池と云ふ事あり  
船橋町の南にあり

● 洗

船橋町の南にあり

血洗川と云ふ事あり

其地と云ふ事あり



接の井

接田井存彦の表門あり

直に九尺をりありて身より井あり

産り

接田町の南東國産と流時彦の川

接田町の南古一、其の野ありて

門のりし如く野ありて、接田町の南

湖池

赤坂町の南、山をのえの麓に

むく神田玉川の支と水ありて

の時、水は上水より引らまし

麻布山

麻布山、接田町の南あり

其の山、接田町の南あり

一本松

接田町の南あり

一本松、接田町の南あり

一本松、接田町の南あり

水門の神社

水門の神社、接田町の南あり

水門の神社、接田町の南あり

水門の神社、接田町の南あり

七瀬業陣

七瀬業陣、接田町の南あり

七瀬業陣、接田町の南あり

接田町の南

接田町の南、接田町の南あり

接田町の南、接田町の南あり

毘沙門天

毘沙門天、接田町の南あり

毘沙門天、接田町の南あり

本化してくむ徳を子の那送し今人新  
ありとのみ天守ま田備中との名物なり  
と云々

▲出陣が系 保河町のまじり  
きこりのまじり  
曾良神の宮

河内出陣が系より雷田内町の右小寺  
在り此の月廿八日あり別當報恩寺  
此の寺に在り高証院ありと云々  
白梅と云々

■氷川神社 河内より南之船板の下に在り

白浪の徳にりて此の九月十九日あり

■雷電宮 河内化より小寺在り

▲梅 葉屋  
之徳化より左水門社の傍にあり

此のり五十二世徳院一海上人の名に梅と  
云々一節の和歌に海に在る白梅ありと  
云々

■天備宮 河内より北の方

此のりより御神不安を及ぶと云々  
の口化ありと云々

彼ささきのふと死河内正古師の里に口化  
烈の方より多しと云々  
此のり徳にり

■白浪高野寺 河内徳河の坂にあり

此のり此の徳にり人方の徳にり

■稚子 河内徳河の坂にあり

此のり此の徳にり人方の徳にり

■元之大師堂 河内白浪の徳にり

此のり此の徳にり人方の徳にり

■白浪高野寺 河内徳河の坂にあり

此のり此の徳にり人方の徳にり

■見火善堂 河内徳河の坂にあり

此のり此の徳にり人方の徳にり





天寺

月形此方より西に  
明徳寺長久院と云はるは  
二世法海和尚の遺蹟なり  
天保七年七月十六日  
此院の境内に  
法華寺

法華寺

結天寺の南に在り  
物法山吉祥院と云はるは  
の宗師より天竺より  
此院の境内に  
今塔の境内に

八幡宮

日形より南に方一丁  
此宮の境内に  
九郎の境内に

九郎

此宮の境内に  
此宮の境内に  
此宮の境内に

十一

此宮の境内に  
此宮の境内に  
此宮の境内に

水神社

此宮の境内に  
此宮の境内に  
此宮の境内に

古長

此宮の境内に  
此宮の境内に  
此宮の境内に

今井城址

此宮の境内に  
此宮の境内に  
此宮の境内に

泰平

此宮の境内に  
此宮の境内に  
此宮の境内に

肝末物の内衛一末り南朝大仏殿の傍  
小寺あり其教長末良身持し七降中の  
守護と名後三つ納め寺置はとる長良  
山梅宮院 古山又保丁通の  
徳野持院社 日本系名所ニツリ

紀及徳野の三社不同し古山の徳野は  
去ておれ隔年九月七日別高浄性院

瓶光寺 日本系名所ニツリ  
南命山号以修良寺若光寺中城上人若  
院にて浄土宗の所なり元禄元年成  
年の至刻して始末書中に見ゆとて室永  
二年この世へ移るといふ

作候塚 一名とま枝若塚といふ  
百人町の通り田村茂の邸の中にあり隈  
省の令主磨尺修の塚ありといふ

井橋 古山在志丸の谷あり小満の塚は  
鶴が谷と作はすこの物も小作共小池の  
玉府が若橋の井をたてしといふ

水川神社 沼後川の傍にあり  
お供ふ古大お新朝々の物候とて別  
この地の産物なり

合主磨尺修の世書  
上原若志寺古山長良寺小寺在次通寺の  
他あり

徳野持院社 中原若小寺  
この所の産物なり此を八月十五日を  
神代文を一坐む一原若志寺を守護  
せしといふ

合主磨尺修 日本系名所ニツリ  
むし原若朝徳念庵が初め鐵小寺  
ありしと合主磨尺修が後より此地に移  
し七八時分の隠籠小橋といふ

合主磨尺修 日本系名所ニツリ  
日本系名所叢林の中にあり  
合主磨尺修十七者のとれ長朝の念にすて  
後合小寺ありむし原若朝徳念庵に  
合主磨尺修自ら登壇遊りてす小橋に  
ありといふ

散 日本系名所ニツリ  
日本系名所の方塔の内にあり  
夫々事なるが後五柱は長良の枕に  
ありてその水と持てその味は甘きなりと  
懐河ありといふ

〇廿五

五池

日あり

天文の辰天下まふ早まらぬ水濁り年  
に備せたり一人の女子とて汲みよりの玉  
汲りその女子に流して杖々八幡大神なり  
大水の急ぎに遊てその井中不た熱不林  
相不怪其より人思て神相不収む  
依て玉の井も囀けること

神

八幡の西に在り

むり空神仙人の若ふ入不老不死の位  
丹伝神の池水より

約

丹伝神の池水より

丹伝神の池水より

小

丹伝神の池水より

小伝村八幡山表裏古くしての津ま  
のち院不動の神は東神祀に名重  
加たの決りて月一思世の信儀を  
の儀と傳へて毎月三八の日法人不  
手参詣と求むるや奉まきと願  
らふ神事するの申のめりて  
乃公孫流の字も傳もあるといふ

負

丹伝神の池水より

兼光院といふ日色堂のち小寺  
傷の文テ二寸二寸あり傳へて  
年春の日の縁と免が目に  
か敷小入の山重連を傳へて  
輕い依て自ら彫造し  
正一位子の神社

正

丹伝神の池水より

正一位子の神社

若

丹伝神の池水より

若宮八幡宮

宮

丹伝神の池水より

宮八幡宮

世

丹伝神の池水より

世田谷八幡宮

世

丹伝神の池水より

世田谷八幡宮

南西の麓に神方より最長村の御座  
之より西に小川あり  
水川神社 大森村に在り  
別當 水妻よりお札毎年九月廿一日あり  
暦仁元年南流の修治に戸氏御座候と  
いふ事ハ唯一宗派なり小天文年間より  
あつた習合ふ事ありと云

磐井神社  
湯養村より大森村に在り  
此神社は多岐武蔵の系に在るの磐井  
の月廻り式に神名は小森といふ事磐井  
神社と見ゆ事ありといふ但此表に磐井  
磐井神社といふ記あり

地蔵寺  
赤芝山に在り  
大森村の南に徳田村に在り天保十二年  
庚辰の春大陣田創祀

觀音寺  
古澤洗よりお宮に在り  
永正年間天名の山に実海寺創祀  
天神殿 日中よりおの方を有り在り  
お札天保十二年天正と云

除穢蛇神  
お宮に在り  
お札天保十二年天正と云

廣福寺  
松がしと云 昔は福毛山と云  
昔村の内にお有り福毛を山下の位階  
と云中にお有りお宮にありお宮にあり  
天保十二年天正と云

章徳天皇  
月本向の山の中腹にお有り  
祭礼九月十八日

辨  
同前の方後のお宮に在り  
福毛入を寺に成居候の四世と云り  
元文二年六月廿二日御座候

飯室山  
お宮に在り  
山上にお有りお宮にあり

長森稲荷社

同所より北丁馬路を履き菅生村に在り

旧蓮宗安んま祀之元文及享和時

茶所堂

長森村の南二子山に在り

慈光大師の他和佛に七尊する由也

大師養心堂

入江一乃里方計に七空中二乃里方計に

年保の一人の山伏を祀し七尊あり

その穴に入ると又大師と習う玉體あり

松山の神祠

お良夜本領を海にのぶる長入と

十餘丁あり方々を邑にあり

稲毛稲荷堂

野川邊の内に在り

稲毛稲荷堂

別當より長宗蓮宗院宗乳隔年九月

九日祭神牙稲荷命

稲荷神社

別當より長宗蓮宗院宗乳隔年九月

九日祭神牙稲荷命

橋渡神廟

社本より東に方山の中後小森

中橋形の西に及び山冠を流す

一休僧やると回廊ありと云

稲荷寺 長宗山金剛院と云

九子殿乃の西小松村に在り

小松の東の東邊なりと云

小松の地

居るより大門の傍岩家の後園に在り

その長十三年の遠宮万治三年に云

多人以て自耕の居小松に在り

山王権現

上座子後より西に在り

然則天宮の寺に在り庚申の年を以て

より後、華に在り

稲毛山

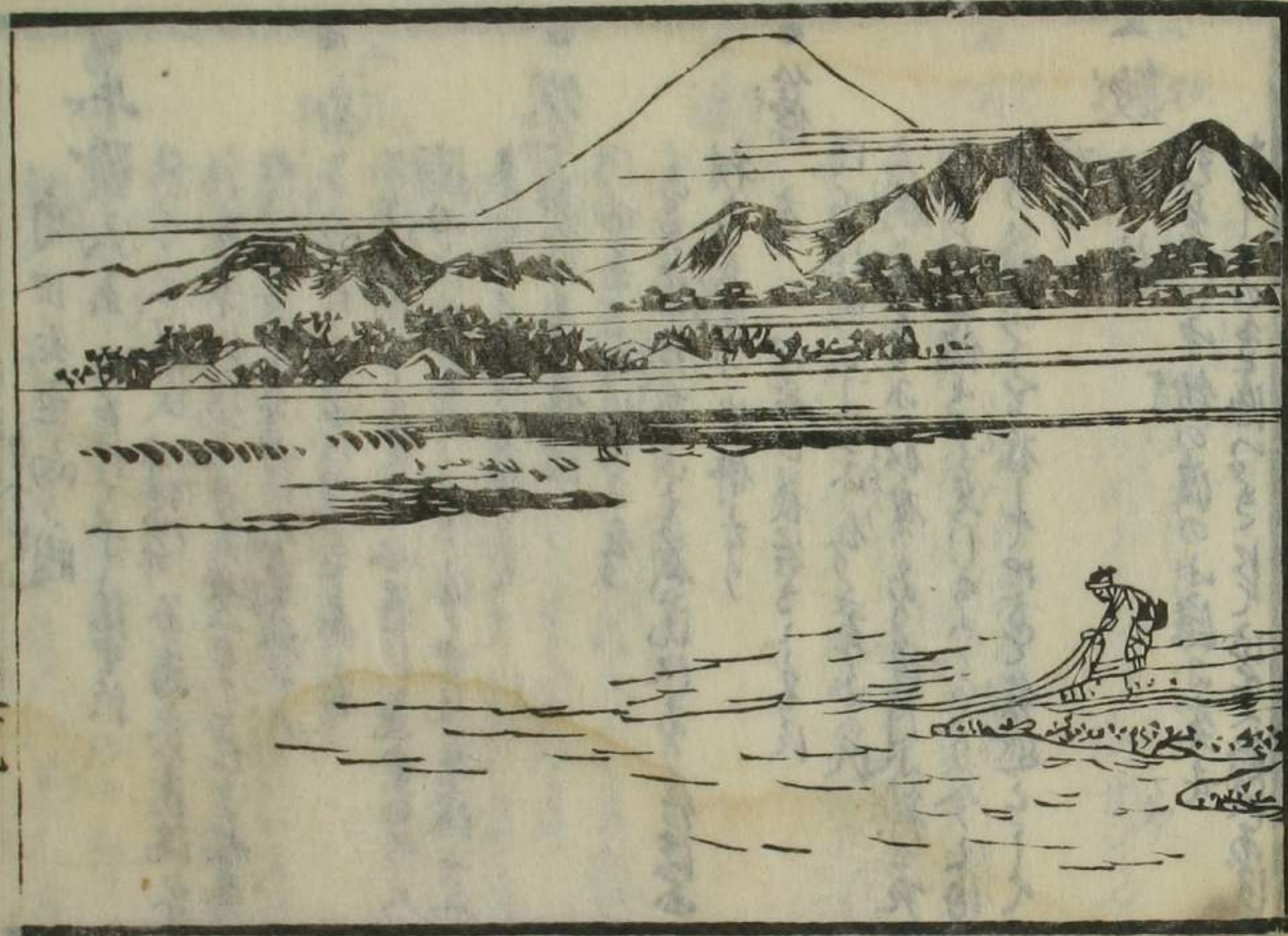
稲毛山より南中座子村に在り

別當稲荷光山に在り

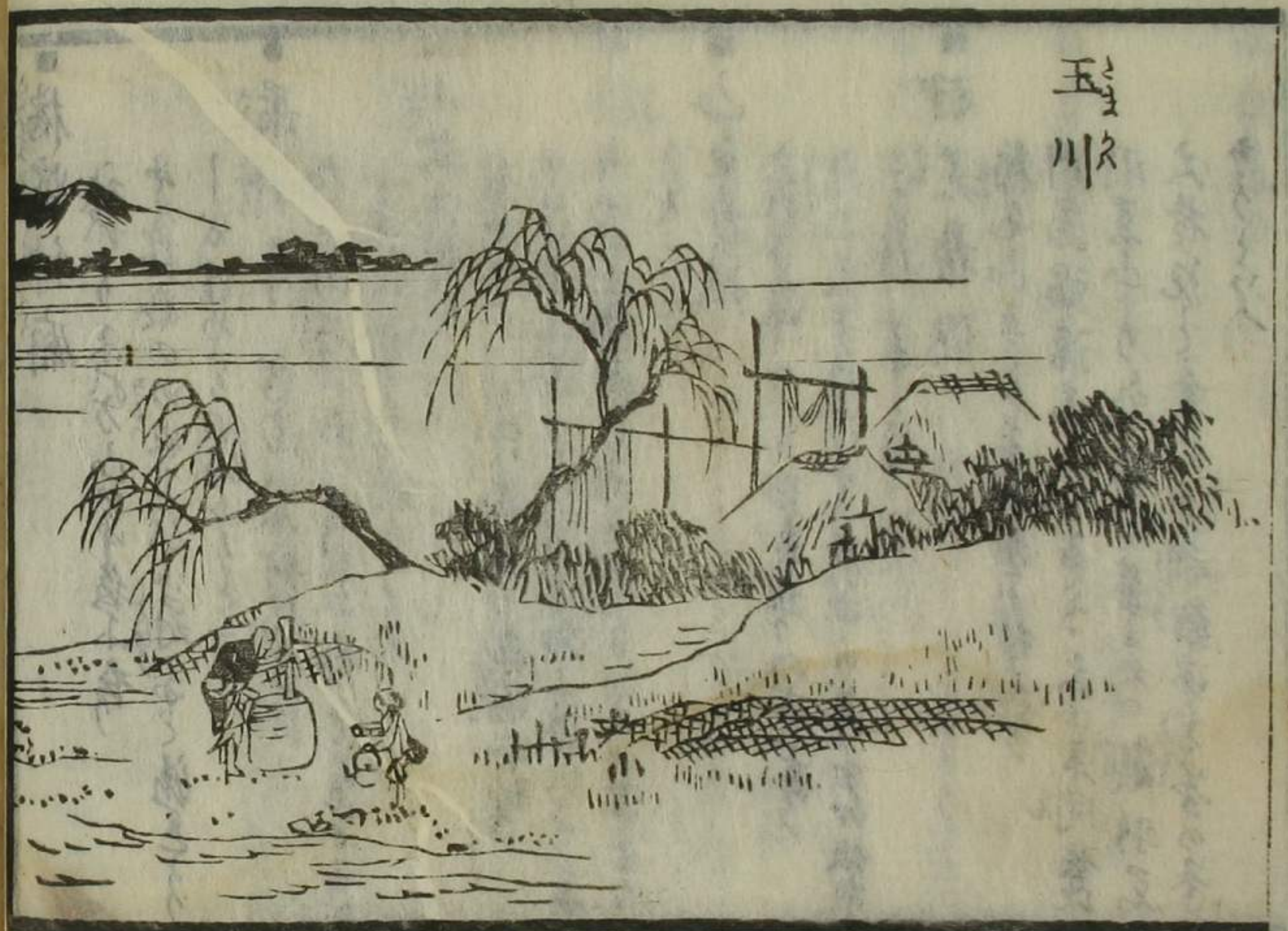
羽黒山より北に在り

大持現と云

ありと云



〇廿九



〇三十

自比谷至高ヶ岡

牛頭

天王 比谷傳子 法堂に

神を芝蔭氏 永田保 比谷宗元 洗宗

礼毎年六月十八日 女一日 二日 三日を福為

の神と傳ふ此地の古を神といふ

鬼子母神 同本坂の下の河に在り

同連宗 同本坂の下の河に在り 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

千

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

千

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

千

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

千

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

千

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗

千

比谷宗元 洗宗 比谷宗元 洗宗



代

代々本野八幡宮 代々本野小倉

敷

敷 九月廿二日別為... 敷 九月廿二日別為... 敷 九月廿二日別為...

高井

高井 甲辰... 高井 甲辰... 高井 甲辰...

鬼子

鬼子 井... 鬼子 井... 鬼子 井...

布

布 甲辰... 布 甲辰... 布 甲辰...

布

布 甲辰... 布 甲辰... 布 甲辰...

青

青 甲辰... 青 甲辰... 青 甲辰...

澤

澤 甲辰... 澤 甲辰... 澤 甲辰...

四

四 甲辰... 四 甲辰... 四 甲辰...

甲辰... 甲辰... 甲辰...

我々古くは神代より二王ノ屋敷末の四路  
ありとのちの島より古き屋敷ありて  
破れやうとせられたるありし人より  
とせられたるありし人より  
めと島田とせらるあり

日村の屋敷

世の嘗てはありある中島屋敷とせらる  
瀬川とせらるありし人より  
瀬川とせらるありし人より

瀬川

河内河津郡の地より  
古くは東条中島の地より  
古くは東条中島の地より

瀬川

河内河津郡の地より  
古くは東条中島の地より  
古くは東条中島の地より

瀬川

河内河津郡の地より  
古くは東条中島の地より  
古くは東条中島の地より

瀬川

河内河津郡の地より  
古くは東条中島の地より  
古くは東条中島の地より

瀬川

河内河津郡の地より  
古くは東条中島の地より  
古くは東条中島の地より

瀬川

河内河津郡の地より  
古くは東条中島の地より  
古くは東条中島の地より



字嶋山今割寺の本寺なりて平原一大原あり  
あり古伝ありて他傳ありて大室のありて  
今割寺なりて平原村に在り

平 維摩の墓  
今割寺より西平原村に在り  
寺より一丁の松ありて寺より寺人守余中二天  
石を置き二丁計りありて寺人守余中二天  
との小祖ありて寺人守余中二天とありて  
寺人守余中二天とありて寺人守余中二天とありて

松 蓮寺 真岳山寺  
寺より南東にありて平原にありて天平  
年間新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
後新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
寺人守余中二天とありて寺人守余中二天とありて

百草八満宮 日中より西の方山の中段に在り  
寺より南東にありて平原にありて天平  
年間新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
後新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
寺人守余中二天とありて寺人守余中二天とありて

一宮大の神 日中より西の方山の中段に在り  
寺より南東にありて平原にありて天平  
年間新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
後新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
寺人守余中二天とありて寺人守余中二天とありて

小田田 今割寺より西平原村に在り  
寺より南東にありて平原にありて天平  
年間新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
後新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
寺人守余中二天とありて寺人守余中二天とありて

穴天神社  
寺より南東にありて平原にありて天平  
年間新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
後新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
寺人守余中二天とありて寺人守余中二天とありて

向ひの景  
寺より南東にありて平原にありて天平  
年間新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
後新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
寺人守余中二天とありて寺人守余中二天とありて

市街八幡宮 市街の南に在り  
寺より南東にありて平原にありて天平  
年間新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
後新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
寺人守余中二天とありて寺人守余中二天とありて

寺より南東にありて平原にありて天平  
年間新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
後新屋を造りて七雲の屋を築き割に  
寺人守余中二天とありて寺人守余中二天とありて

東林 慶林寺 文の年間 文の年間 文の年間  
のちのち 文の年間 文の年間 文の年間

新王寺 橋本山 東光院 文の年間  
八幡寺 小川 文の年間 文の年間

大澤 天満宮 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

七面大明神社 日東の澤にあり  
日蓮宗 春の山 文の年間 文の年間

自證院 法徳山 文の年間 文の年間  
日西の山 文の年間 文の年間

集めを造り 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

慶の神社 柏木村にあり  
むら 文の年間 文の年間

慶の神社 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

慶の神社 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

慶の神社 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

慶の神社 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

慶の神社 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

慶の神社 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

慶の神社 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

慶の神社 文の年間 文の年間  
文の年間 文の年間 文の年間

窪まの同小百八の堀成集くといふ今  
之不あり知してありといふ

室

仙寺 明王山尼勸院と名氏

中野村に傳り良辨傳彩の開基といふ

桃

園 同本村の方九十九程と名氏

享保の氏より此の田圃に桃數十株と極  
まふといふ 在命にすて極室と名氏

の以り知れ枝と支へ一時的に法印より極小  
於下の衆人群集して請を連絶といふ

日

親吉堂

土人柳堂と名氏

阿

依省神明社

同本村の方阿依省村と名氏

祭神伊勢小日向并神八一願の安んじ  
毎年九月十六日祭礼

妙

法寺

日蓮宗一統法寺と名氏 堀内村と名氏

係い元碑文省の法華を伝ゆりといふ  
あつくと不後いもる世小厄除の世に

孫

孫は日朗上人の孫といふ日蓮大士修長の  
修長又祖流のまは日朗法別せんといふ  
といふとも懐いせ故不流余中并小止  
まうて日蓮師の教を法行を以ての師  
中并を流小是末の流は末を之捨ひて  
師の流と彫刻し朝番位を有かそ  
後日蓮大士秘免ありといふ流と名氏  
感服さうりく今より我を神々の像といふ  
まそ承く流生を教護長へ一統既不  
は千二を有いふといふ流の号を冠む

加

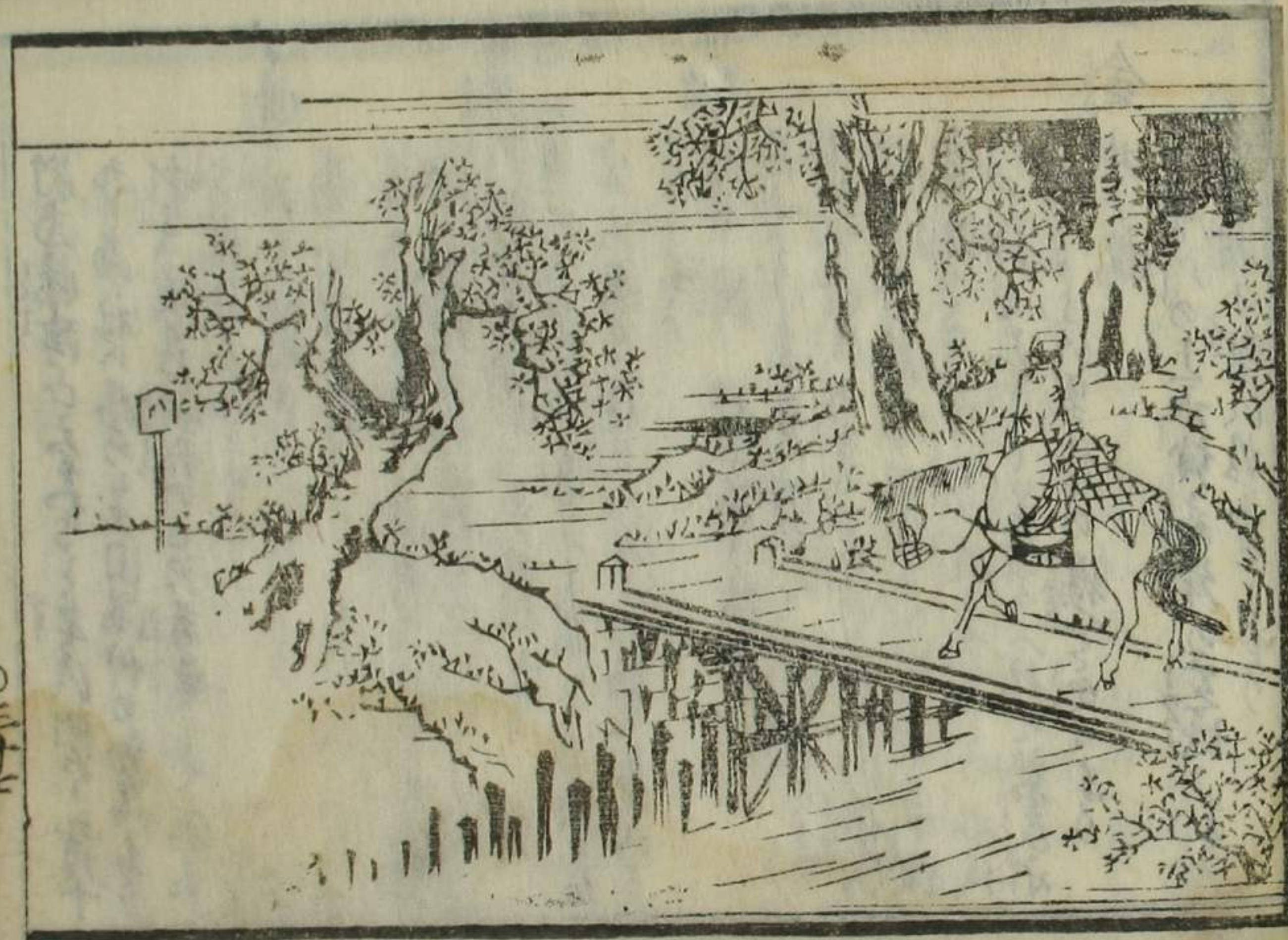
持翁

日蓮大士修長修長に在りては  
八身ありといふの秘流成か人た士則  
この秘流と名氏といふも是流あり後  
日蓮師といふ流あり今も此流あり  
の流三七日あり流あり一統小海流  
類同すといふ流あり流あり流あり  
流あり流あり流あり流あり流あり  
毎年七月法華千於十月十日法華  
といふ流あり流あり流あり流あり

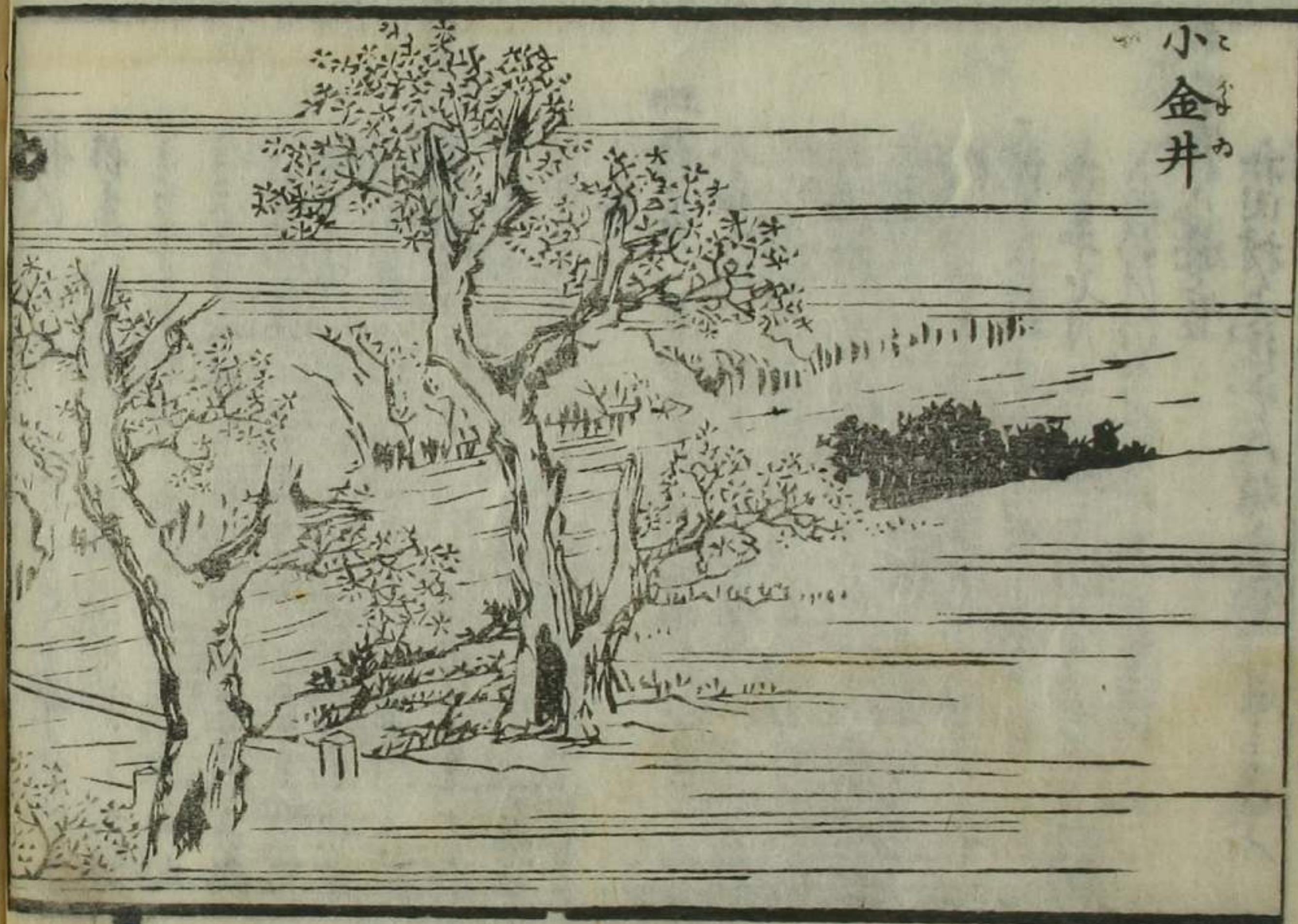
大

宮八幡宮

和国村小法堂八幡小和国八幡といふ



三十一



小金井

三十六

別当藤原止と云ふと早氏例系なり十  
九百有社に所り多因爲仲の勅にあり  
新嘗祭及石代のまは再建しく源家  
の遺徳を以てしん  
 備へる不動のま  
 備へる不動のま

井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井

井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井

井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井

井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井  
 井 井 井

金井橋

厚保の氏 白倉にありて和曾良経は  
 播川赤の孫一石撥我のみま守り其ま  
 らる後継り不継り今も二百餘年  
 と被て其時滿洲の財をいりて  
 中に多摩川の流る屋敷あり  
 室のやゝ盛りのとくは其も徳流り  
 徳流りたか小敷の孫人をまきと盛  
 去り其も其時其まきと殺り其  
 橋のむらむら其まきと

從牛邊至三條合

深久丸神社

牛邊合の御所あり  
 この御所ありと小田の境なり別当  
 古流の御所ありと其の御所あり  
 平の御門あり其の御所あり  
 本門の御所あり其の御所あり  
 戸の御所あり其の御所あり  
 中庭の御所あり其の御所あり  
 縁の御所あり其の御所あり



八幡宮

日野村の古蹟也

遠

此宮の神より入りてあるは其の古蹟也

此宮の事は其の古蹟也

任下は其の事は其の古蹟也

て其の事は其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

神

此宮の神より入りてあるは其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

表

此宮の神より入りてあるは其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

園

日野村の古蹟也

此宮の神より入りてあるは其の古蹟也

赤

此宮の神より入りてあるは其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

宗

此宮の神より入りてあるは其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

神

此宮の神より入りてあるは其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

三

此宮の神より入りてあるは其の古蹟也

三

此宮の神より入りてあるは其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也

に其の事は其の古蹟也



今八尾良産の山下鍛冶と云ふ  
荒蕪山

戸山と大窪との間なり  
この色を首の名なり

山吹堂

言田の三橋より北の方なり

この地今日向山神社と云ふ  
又古田乃瀧神社と云ふ  
然れども不入兩具と云ふ  
物産ハ人の子  
贈るなりその田路と云ふ  
小日向水乃下の方なり

言田七面堂

日向よりあり

此堂は元船院と云ふ  
事云々なり其の  
お早社地と云ふ

備の橋

月水の方と水川小架

長十二万余丈の石梁の名なり形も  
大きく其の橋小きく

岩見の橋

月水の方と小架

む色この橋の左に小架ありその  
入て流と云ふ  
海風橋平水橋の如く  
くとも又業平の橋  
此此川にて流風と云ふ

水川神社

下なる田村の寺に社あり

名を神と云ふ  
式あり  
あり

水川神社

日向より神園の方あり

名を神と云ふ  
式あり

七曲板

日向より龍之上と云ふ

曲板あり  
下なる合村の内あり

新宮橋

新宮院の橋の淵に架せる橋あり

は下町に八更及街屋の屋敷あり他  
水神社の上より玉園友の邸園小並木の  
社の傍あり

■ 水神社 神形 石の小塔中終あり

高野の額木花咲耶形令れら字す水  
戸野光園の山草とつひ今公の爲  
令宗院の宝物と也

■ 藤 杜橋若社

日本書紀の根小橋あり  
まこと小橋若とも稱せり

■ 一 投若 林田上水白橋通あり

此の日本書紀二十卷本巻上より  
小橋といひ本橋本より白鳥を渡り  
是より一町の舟船あり

### 南北方

■ 伊羅太神宮

少子橋若橋の良寛時代代地あり  
土俵地也本林より入る

二ッ 橋 二ッに橋依台を築きよりの名に  
例を六月廿六日  
少子橋より本林本町へ入る

■ 三ッ 橋 三ッに橋依台を築きよりの名に  
例を六月廿六日  
少子橋より本林本町へ入る

■ 赤 橋

赤橋の南にあり今町敷十八丁あり  
此は橋屋屋敷和向の地海江と云  
多そ精舎成宮と云是處より多  
後世より依河川小橋七々の所意く町  
赤と云れり

■ 紙 代橋

若橋より源川依代丁にあり  
元禄十七年此の地を築き  
百十間あり

■ 茶 脚堂

茶屋寄河町にあり  
茶屋の屋敷あり

■ 樹 林橋若社

日本書紀にあり  
此の地を築き

山城小伏見稲荷と月本付化んとを  
恵比須稲荷社

同平湊丁の南に稲荷の塚あり  
しほしほと海の高き海に多く集りて  
海人の海老の塚と唱へしと後世傳り  
傳てて老子と云ひをうりたりと云ん

湊稲荷社

同平湊稲荷の南に有り  
法中の子鹿中津洋くゆりてを以て  
蘇より湊神社の足と稱しうりたりと云  
ゆ八丁場の南に稲荷あり

湊地蔵

南史凡八丁と云うの北西にあり  
寛永の以て寺の町間成試くも中  
いりありとのふ又この出所の形湊地蔵  
傳りありの是と云ふなり

佃

湊地蔵の南に稲荷あり  
文徳年間同の江戸國小向傳とあり  
今も稲荷向傳と唱ふ人あり其月の  
男毎夜稲荷犬と稱して傳りて其白鳥  
の名所あり

稲荷神社

稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり

稲荷

今と云ふ稲荷の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり

稲荷

稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり

稲荷

稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり  
稲荷神社の稲荷あり



櫻川

如左廣東門の傍小川の竹叢あり松小  
あつたさうとされとて東中寺あり  
相しは石懸く田畑ゆへ樓の樹皮その  
中を流りて丸小果くとりん

揚子

揚子の為小橋あり新美まを家内  
屋中のま一あり本寺東師やまは法  
大師の宅之毎月十日多て新集を  
中世佛僧軍北花寺之殿あり老名と  
同くく沢永く火災を退けぬ小僧僧あり

松寺

松寺 萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり

曹洞

曹洞流の中はゆへに寺あり其のあり文の年  
間を南橋あり其のあり其のあり其のあり  
會通心とて同如あり其のあり其のあり

金

金 萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり

天

天 萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり

城

城 萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり

西久保

西久保八幡宮  
天徒七裏門あり南殿あり二丁目あり  
あり八幡山あり院あり其のあり其のあり

怨

怨 萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり  
萬年心とて同如あり

勝

勝 本堂より東の海濱にあり  
同芝の海濱にあり  
此の地は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり  
此の地は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

赤羽川

赤羽川 本村にあり  
此の川は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

上寺

上寺 本村にあり  
此の寺は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

安國殿

安國殿 本村にあり  
此の殿は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

芝浦

芝浦 本村にあり  
此の浦は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

神

神 本村にあり  
此の神は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

鹿嶋神社

鹿嶋神社 本村にあり  
此の神社は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

鹿嶋神社

鹿嶋神社 本村にあり  
此の神社は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

鹿嶋神社

鹿嶋神社 本村にあり  
此の神社は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

鹿嶋神社

鹿嶋神社 本村にあり  
此の神社は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

鹿嶋神社

鹿嶋神社 本村にあり  
此の神社は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり

鹿嶋神社

鹿嶋神社 本村にあり  
此の神社は古くより名勝なり  
古名所なり本村にあり



初寅小春坊の人極不と求めてゆき奇むは

小影よ

三田御坂 津田成ひ八無田の地、  
は不そのむは日光のほろ三波臣の徳が  
地之又或ひは住居の地とあり

小山林月宮

林月宮室を子孫傳ふ名勢院と号し  
春目的神社 二田一町月宮

所の四神と勢法を 村上天皇の元徳年  
間より地不紀りしなり

二田八幡宮 二田町七丁目

二田の勢法を以て名神山城古田方山と号  
一後一高希平元仁年間の名創りあり  
高脚海山を名院と号しおれり八年八月  
十日 延喜式神名帳に云く高脚山在東郡  
津田郷 藤田八幡といふ是なり

龜

むは八幡所作業の境内不ありしと  
今八幡家家の所地不なりしと  
性骨竹葉の樹士の地地不海を  
その傍不修りる早龜あり古人是と

記すなり一毎風ありて勢法並一  
の古不化せりしなり

龜

同不海軍より小春重良の所地  
卷上ノ元和二年重良中津小島  
院と建て安重平の所地七年二田の地不  
後一は高脚山の地と号し是應元年  
今の地不接はと号し其親高の所地小  
一七面相唐如のや右のり小島の高脚  
持たのり小島をたのり

見坂

伊四子より田町下り坂  
意名成坂ありしなり海濱小津の地  
なれば自より名ありしなり

伊四子業師堂

伊四子より名傳へ下る坂に在り  
西より小島居る小島重良の所地大伴の地  
新の地ありしなり今の地不を其地と号す

高輪

白根屋二本枝あり意大井村ありし  
ありの地名あり意小上杉朝興軍家  
中一小田原小島勢と号し高輪が東に

高輪

白根屋二本枝あり意大井村ありし  
ありの地名あり意小上杉朝興軍家  
中一小田原小島勢と号し高輪が東に

高輪

白根屋二本枝あり意大井村ありし  
ありの地名あり意小上杉朝興軍家  
中一小田原小島勢と号し高輪が東に

高輪

白根屋二本枝あり意大井村ありし  
ありの地名あり意小上杉朝興軍家  
中一小田原小島勢と号し高輪が東に

高輪

白根屋二本枝あり意大井村ありし  
ありの地名あり意小上杉朝興軍家  
中一小田原小島勢と号し高輪が東に

高輪

白根屋二本枝あり意大井村ありし  
ありの地名あり意小上杉朝興軍家  
中一小田原小島勢と号し高輪が東に

高輪

白根屋二本枝あり意大井村ありし  
ありの地名あり意小上杉朝興軍家  
中一小田原小島勢と号し高輪が東に

液里ありといふは小桑又代化の中載

● 泉岳寺 海老の石州不在

曹洞宗の寺なりちの寺一あり其寺の以  
ち今小桑の門庭宗國相尚亦梅田の地  
小建五尺重多承十八年山形に移す

尚も小桑の門庭長矩及び十七人の  
居士の石牌あり係小碑を建てて其旨説  
を記す二月二日の日二月七月の十六日  
その墓を遷葬して其地の寺殿一

● 子堂

月西の方の在り  
旭嶺山寺あり小桑無以終極を子十  
六人の墓あり自ら造りて其寺あり

● 庚申堂

月西の方の在り  
庚申の日は庚申の俗名なり此の俗名  
月庚申の日庚申の影一

● 石神

石神の横小形あり  
此神様あり其日西天台寺安養寺

● 高山稲荷

記すこの社稲荷の縁を其の寺の所  
なり其寺の縁あり其の縁あり其の  
なり其寺の縁あり其の縁あり其の

● 谷山

谷川の谷小桑の海と縁あり  
但し月西の方神の影の影なり其の影  
あり其寺の縁あり其の縁あり其の

● 東海寺

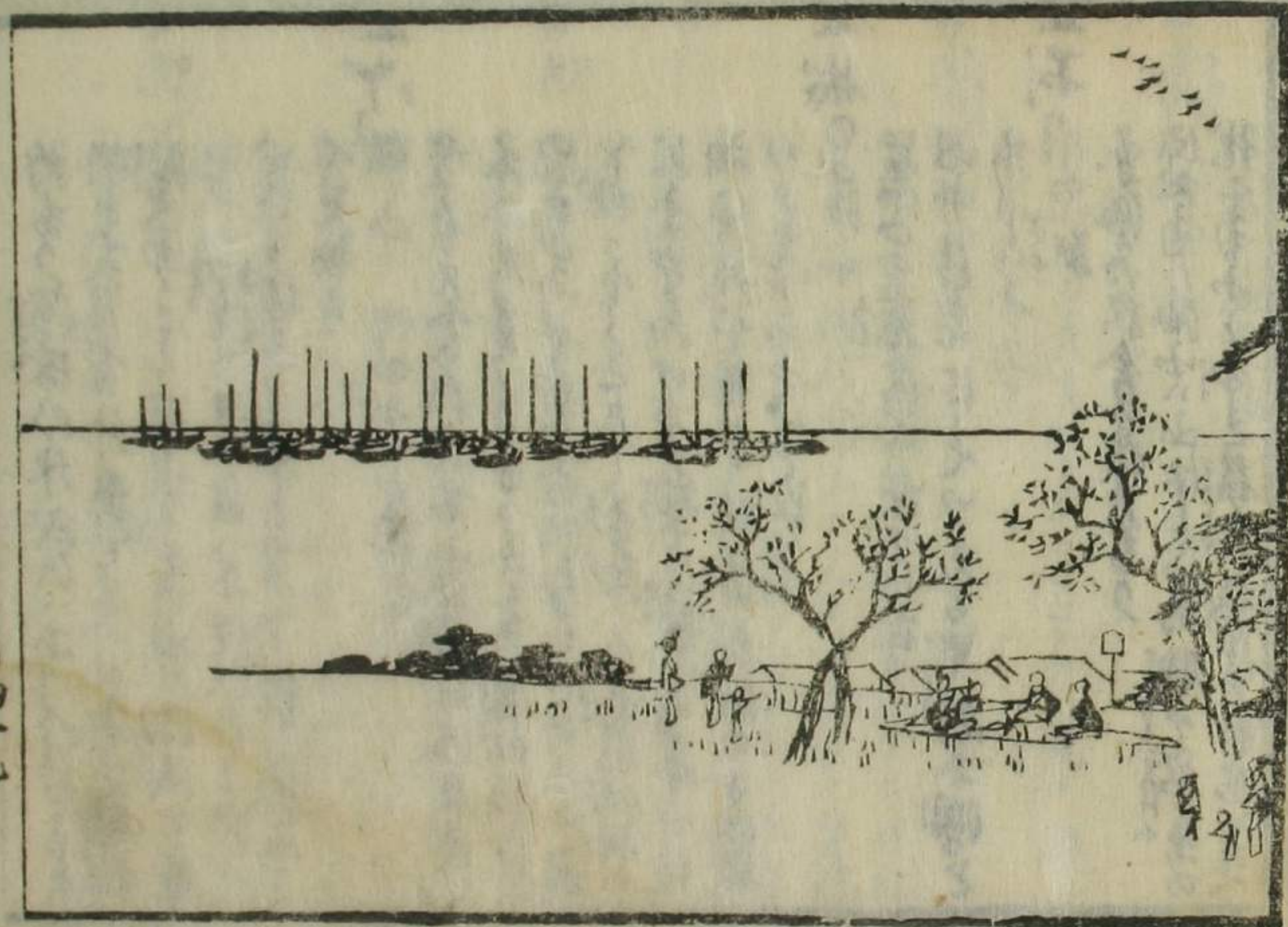
東海の寺あり其の寺あり其の寺あり  
其の寺あり其の寺あり其の寺あり  
其の寺あり其の寺あり其の寺あり

● 牛頭天

東海寺の牛頭天の在り其の山の上  
相殿不神の宮を其の寺あり其の寺あり  
其の寺あり其の寺あり其の寺あり

● 小桑氏

此社に永享年中太田氏の御代



四十九



五十

所より海傍の神武の八咫の神と云  
御来太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に

海

海邊の神武の八咫の神と云  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に

磯

磯の神武の八咫の神と云  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に

石

石の神武の八咫の神と云  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に

貴

貴の神武の八咫の神と云  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に

寄

寄の神武の八咫の神と云  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に

妙

妙の神武の八咫の神と云  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に

光

光の神武の八咫の神と云  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に  
御來太月有神靈と云川の海邊に

千枝荒神社

千枝荒神社 けりしありあり

海をきくくく禪林小なりしに北のふ  
つあふ在るその形と荒神の系とありし  
耶蘇の後の一棟風起社と破行の  
後及ぶや七箇年小移りし

海

補陀山寺

補陀山寺 小東山にありて  
禪院と云ふは最の殿及び二階堂  
出羽の石垣あり又権平の系あり  
小東山系権平の系あり

門

楓樹

紅毛の系傳に七の系あり一  
初下の系傳集七の系あり  
頭的神祠 砂吹の海濱あり

鏡

鏡の系傳に七の系あり一  
系傳集七の系あり  
大なる鏡の系あり一  
七人の系あり一  
社の系あり一  
心鏡の系あり一  
七の系あり一

納経塚

納経塚 納経塚あり  
性善の系あり一  
性善の系あり一

康徳太の神社

康徳太の神社 日下ありあり  
安和二年考陸奥康徳太の系あり  
安和二年考陸奥康徳太の系あり

鈴石

鈴石 鈴石ありあり  
鈴石の系あり一  
鈴石の系あり一

烏石

烏石 烏石ありあり  
烏石の系あり一  
烏石の系あり一

松

松の系あり一  
松の系あり一  
松の系あり一

松の系あり一  
松の系あり一  
松の系あり一

下りて此と離るる少くは只天の成り  
さひ穉き故に後松尾後松といふ  
まゝかゝる大樹はもと勅命のきこはれ  
勅命をよりの名に松尾といふ

八幡宮

天文年間に移りて今もその跡あり  
徳太子の御代なりとて境内の小石に  
松の守りありとて人懐ひぬと云ふ  
松尾山

松

同而後の松中塚

性古木松氏の松尾方なる松かきと  
多お獲海乃小一と荒園名といひ  
是なり松尾の松中塚の中徳小舟  
松天と記る松尾とて小野小町のま  
かひり

松

池と村あり

日蓮大士松尾の一事とて甲辰年延小  
徳良西中山とて松尾之取とて人  
日蓮大士松尾の古松にて延壽年  
間の系創り

千考也

則日蓮大士の開基とて松尾の事と  
日明上人高日修蓮の功ありとて松尾の  
松尾推て開基とて松尾の松尾松尾と  
法堂の管他寸松尾とて松尾とて  
毎年十月十日 祖師の命日とて松尾  
系松尾松尾とて松尾松尾とて松尾  
松尾松尾とて松尾松尾とて松尾

中

中延八幡宮 中延村に在り  
松尾八幡宮は法蓮と松尾と松尾松尾  
松尾松尾とて松尾松尾とて松尾松尾  
松尾松尾とて松尾松尾とて松尾松尾

馬

馬松尾八幡宮 松尾村に在り  
松尾松尾とて松尾松尾とて松尾松尾  
松尾松尾とて松尾松尾とて松尾松尾

光徳寺 大令の宝幢院と号す  
この棟より七等塔心正なる像あり

新田大町神社  
光徳寺より南東に村あり  
別當古賢なるを宗にして其福をくむる  
名神新田古賢其傍其長日天  
毎年十日と銘日とす其日の際一光  
亡びのあり世人の初るを其の妻しく  
祀す

十勝社 日正と名を向ふにあり  
其奥の古賢俱ふありて村并より及  
来十人の冥と名を古賢 堂子殿其傍  
社す十勝といハ。井邊に古賢の夫婦同防り  
。南側に古賢。中良を名に。日正を名  
。世良田を名に。市川を名に。古賢を名に  
以上八人の今二人の名を平記不記に今世  
儀の社す不と名に

新川東勝堂 新田の村より東南の方  
馬まの世を院安喜のをそのより吾人存す  
左大深院親迎の像及び二神の像其の  
傍にも行基大士の像ありといふ和歌年  
洞の以の洞基を名に月経を名に

大森村 大森村の古賢あり  
其の奥の古賢八村の村あり  
東海左の信達にして和申教成といハ  
策細之ありの名を古賢 吾人存す  
新の古賢を名に其の所を古賢

大森村神社  
大森村の古賢あり  
此社の古賢を社にして古賢古賢と号す  
新田梅 日正古賢あり  
この社の古賢を社にして古賢古賢と号す  
の古賢を社にして古賢古賢と号す  
新田古賢を社にして古賢古賢と号す  
方不古賢と号す古賢古賢と号す  
傍に遊宴と号す古賢古賢と号す

新田八幡宮 日正古賢あり  
行方遠くといふ古賢の古賢の八幡を要  
新田古賢を社にして古賢古賢と号す

六郷八幡宮

年歴詳多し穴む古きと見えり

八幡宮村なりと云々の敷地也之  
多邊寺隣に密林院建長寺と号され  
約々安房のふより大軍と號し徳令之  
入ふべき此所を勢移りなりと云う  
の邊存す長八幡と云ふ初傳りしと云  
高社に櫻井小杉等建長寺の櫻井  
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

六郷渡

八幡宮村のむにあり

東海及川傍へより舟渡りなり川に  
玉川の清流に七川中を大なりなり  
橋と架す姓名とありけり保年同  
舟渡り小舟なりと云ふ東海及名不  
比橋の長き百二十間あり

要津辨天社

羽田村南の河傍にあり 世傳り羽田  
毎天と云ふ

この河田の浦と云ふ所と云ふ所  
要津と云ふにや高令生山法王院  
と号しお丸櫻等あり本支藏あり  
と云ふ新に七弘法大師の化なり  
年事如月海峯法原坊にあり

川傍の歌

六ヶ渡り口の向光東海及の路舎  
お川がはなすえり程ニり才徳  
御宗徳り住まはれ

源内山王持現宮

川傍と新宮のたにあり

尚社 欽明天皇の御宇に  
と云ふ川傍の敷地也と云ふ  
事犯也

祭神 武甕槌神 正月之日  
祭りあり六月十八日大祭あり  
十月十日祭あり

海原系桃林

大陣の系乃田園悉く櫻と梅なり

用花の白紅白枝と交りて  
赤規なり

除厄大陣堂

合則堂同と企堂兼院と号  
古色傳ふり大陣河東の厄除  
弘法の自他中七海中より出  
正又九月の廿日祭あり  
御新傳也疎木徳と云ふ  
よりたをまふと云



塩

同市南の方海濱に在り

實文九年の既ちの陸濱を閉き初りて人  
人の營々何事にあまじき後日の水と汲て  
砂より多日小晒し陸濱に盛て常として  
と世人間食者の長と成りての事甚だ  
夥しむるに於て下の人等もをさす六有  
ざれ 君の由惠にかりて

新田の神社

塩の内宮に在り

例祭七月廿四日にて翌正月九日と七月二日の  
晩方には八重子の也く多すは是道社に  
因り申す其自れは是の具と祀り延を奉  
因り七月二日徹ち申す申す 村にのり  
即ち夏秋を豊前早稲 陸濱の濱に於て  
況中より云々 陸濱の濱に於て  
八重子の名を陸濱の濱に於て  
因り申す其自れは是の具と祀り延を奉  
因り七月二日徹ち申す申す 村にのり  
即ち夏秋を豊前早稲 陸濱の濱に於て  
況中より云々 陸濱の濱に於て  
八重子の名を陸濱の濱に於て

陸濱

同市南の方海濱に在り

例祭七月廿四日にて翌正月九日と七月二日の  
晩方には八重子の也く多すは是道社に  
因り申す其自れは是の具と祀り延を奉  
因り七月二日徹ち申す申す 村にのり  
即ち夏秋を豊前早稲 陸濱の濱に於て  
況中より云々 陸濱の濱に於て  
八重子の名を陸濱の濱に於て

塩の産

成陸濱の方海濱に在り

塩の内 少量の産あり 為の方海濱の  
形ありて人等其産の多しを揚ぐと云

依木神社

同市南の方海濱に在り

同市南の方海濱に在り 同市南の方海濱に在り

観音堂

同市南の方海濱に在り

同市南の方海濱に在り 同市南の方海濱に在り

市場村

同市南の方海濱に在り

同市南の方海濱に在り 同市南の方海濱に在り

海

同市南の方海濱に在り

同市南の方海濱に在り 同市南の方海濱に在り

東

同市南の方海濱に在り

同市南の方海濱に在り 同市南の方海濱に在り

白旗八幡宮

同市南の方海濱に在り

同市南の方海濱に在り 同市南の方海濱に在り

高社

同市南の方海濱に在り

同市南の方海濱に在り 同市南の方海濱に在り

子安親世書 子安村海なる有るなり

子安村東にありて身も用世は病先傳正  
なす如き傳知者傳ハ伝工ま去日の  
傳かりて元治元年八月十八日葬す

浦清塚 東海村の南にありてあり

浦清塚の塚ありてありてありてありてあり  
浦清塚の塚ありてありてありてありてあり  
浦清塚の塚ありてありてありてありてあり  
浦清塚の塚ありてありてありてありてあり

浦清川の歌 東海村の南にありてあり

浦清川の歌ありてありてありてありてあり  
浦清川の歌ありてありてありてありてあり

上土川

月夜中の町と西の町の町は枝ぎう流る  
あふに流るは枝ぎうと上土川とありてあり  
上土川の歌ありてありてありてありてあり

海清の神社 海清の神社ありてあり

海清の神社ありてありてありてありてあり  
海清の神社ありてありてありてありてあり

幾世持現社

幾世持現社ありてありてありてありてあり  
幾世持現社ありてありてありてありてあり

滝の宿

滝の宿ありてありてありてありてあり  
滝の宿ありてありてありてありてあり

鏡

鏡ありてありてありてありてあり  
鏡ありてありてありてありてあり

法住の神社

法住の神社ありてありてありてありてあり  
法住の神社ありてありてありてありてあり

宗社中表を命と神位皇位二神と云ふ  
多礼二月全日祭日毎月二日祭日あり  
道灌山 日西にあり丁より西の方には  
相伝を國を離るるの中に神を擡入りて  
人との事ありと云ふ

延徳社 延徳社 延徳社 延徳社 延徳社  
延徳社 延徳社 延徳社 延徳社 延徳社

延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位  
延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位

延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位  
延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位

北乃乃

牛天神社 少名川上水場の中あり

延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位  
延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位

延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位  
延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位

延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位  
延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位

延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位  
延徳社の神位 延徳社の神位 延徳社の神位

舞臺一く山日向の落座とありしふあき

大日靈

日向此方七角後みあり、  
足立山柳豆院よりみまはるるに  
大座落しより修へ末の又座あり

大洗

日向の睡下はあり、  
兼倉年間、兼倉より久美麻の  
沢の水と大城比下へ川に依りて  
と加まてその池を流すの池と云

水

神社 日向の  
止水守護れしもの御座りて  
兼倉と兼倉を以て兼倉と云

八

兼倉 日向此方あり  
兼倉年間、兼倉より久美麻の  
沢の水と大城比下へ川に依りて

日向不動堂

日向此方の兼倉あり  
兼倉山郭長谷寺と兼倉山寺  
まは江流大座の作は公守院

日向八幡宮

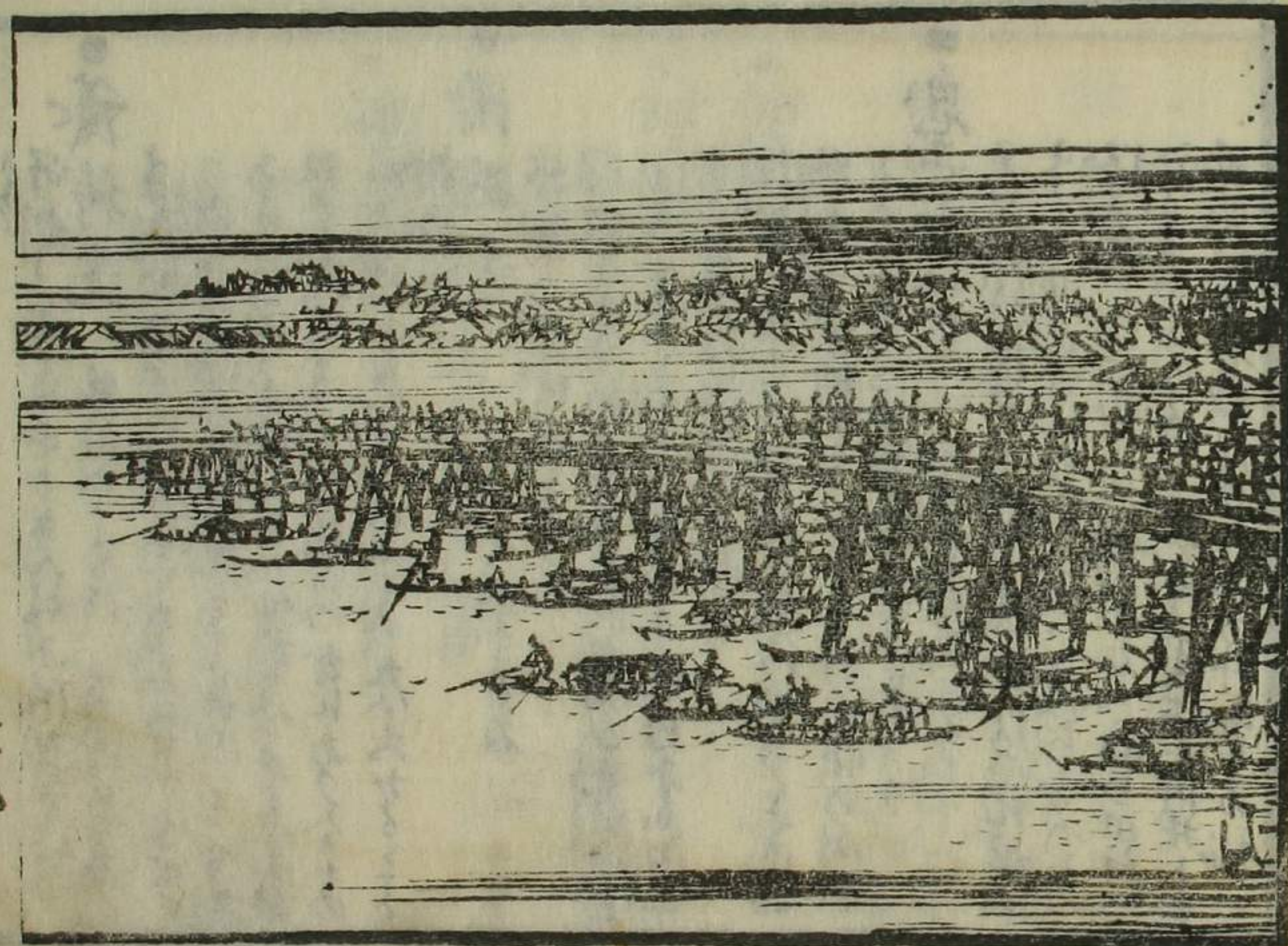
日向此方の兼倉あり  
兼倉山郭長谷寺と兼倉山寺  
まは江流大座の作は公守院

大塚

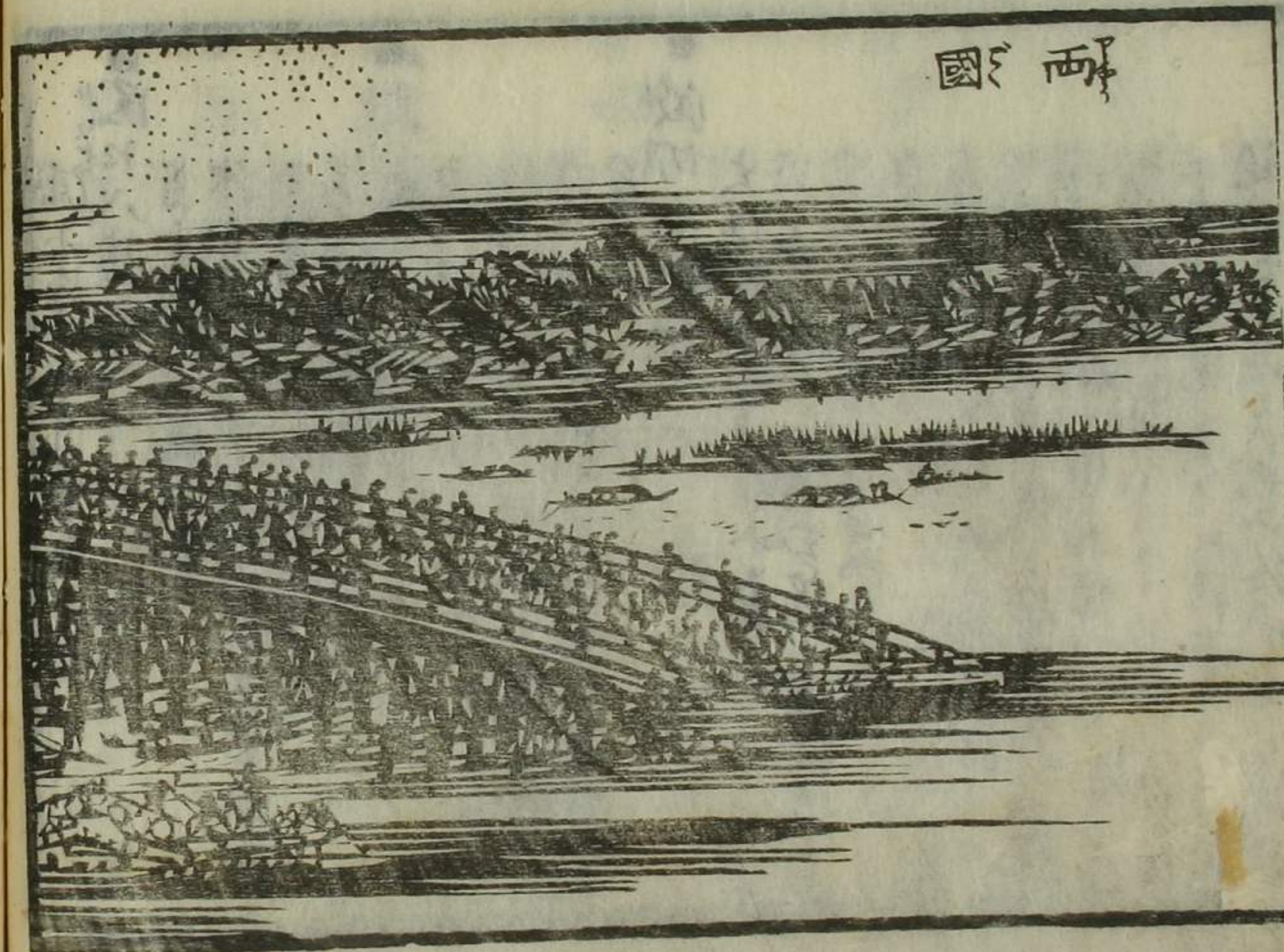
山崎小東所のより兼倉の  
兼倉山郭長谷寺と兼倉山寺  
まは江流大座の作は公守院

波切不動堂

大塚所の通り、右不あり  
兼倉山郭長谷寺と兼倉山寺  
まは江流大座の作は公守院



西  
河  
圖



西  
河  
圖

● 護持院 安房守とある人松小波切の号なり  
一統あり諸方の才應事長く寸柄  
小字はくろき横ら大佐藤にそまふ  
双の大北より元二橋の内にある人々の  
祖と護持院ありといふその度大なること  
想徳べし

● 護國寺 ちん十三百石  
神驗山慈悲院と号し  
月所小あり新々寺と号し用と長山信正  
と号 実小盛大の地なり護國寺あり  
十三歳の札所の号あり

● 鬼子母林堂 親因と号あり  
大行院護持と号し依出の地護  
ちん十神の方にある山と号し  
尋常の中は山は初ありこと始は山  
祀よりあり信小井あり里信を周井と云  
始は山神出況の号あり井小里の神と

● 源巻川 安房守の仁王の号あり  
行院 安房守の号あり  
ちん年間加長屋の祖利屋々の同創と  
と号

● 傳通院 ちん百石  
安房守の号あり  
牛王神あり神の方あり神計八極の  
其の神神年ありと号し一國寺あり  
又神の号ありと号しと号しと号し  
廣田の号ありと号しと号しと号し  
保正年國縁の号ありと号しと号し

● 傳通院 ちん百石  
安房守の号あり  
牛王神あり神の方あり神計八極の  
其の神神年ありと号し一國寺あり  
又神の号ありと号しと号しと号し  
廣田の号ありと号しと号しと号し  
保正年國縁の号ありと号しと号し

男女の御神門の裏に千子小堂を建て

● 本茶派由来

徳和流の由久保所存  
中茶山老翁の御遺徳を慕ひて  
茶山大王の御遺徳を慕ひて

● 白神社

白神社の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 沖茶園

白神社の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 氷川神社

氷川神社の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 御狸橋

御狸橋の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 十羅刹女堂

十羅刹女堂の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 廣申堂

廣申堂の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 松橋

松橋の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 特別編

特別編の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 瀧水

瀧水の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 世小

世小の御遺徳を慕ひて  
少名川の御遺徳を慕ひて

● 清水藩の由来 清水坂の下にあり

曹洞宗の本山と云ふ所の本寺にゆく程 徳を以てのまゝに祀ると云ふ此寺に水正年間 この地の農民杉木を産する人園裏

▲ 千早家の城址 日本より西のまを云

今も残る城の跡と云ふ所の西の山にあり

▲ 徳野の城址 清水の坂より西の山にあり 南社の遺跡と云ふ所の老樹のま たり徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり

▲ 赤坂の神

一堆の塚と云ふ所を二三株あり この下に小祠と云ふ所の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり

● 和向の林 屯倉跡現宮 上る林井村あり

清水の坂より西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり

▲ 氷川神社 日本村あり

石井井村あり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり

▲ 練馬城址 上條村にあり

徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり

▲ 宗 友の墓 徳野の城の跡と云ふ所の西の山にあり



西にといひ侍ふ

内門

水原の移定すけさだの山若木わかしぎあり

着門あきかどハ入る敷しきの木の陣ちんと流ながととの川がわ

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

河瀬神社

野火

川城がわじょうの移定すけさだの山若木わかしぎあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

平林寺

時火ときひの移定すけさだの山若木わかしぎあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

將軍塚

撫山ぬりやまの移定すけさだの山若木わかしぎあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

撫山

若木わかしぎが侍さむらいの山やまの古流ふるながあり

古人の名なをたてて言ことをたてて言ことをたてて言こと

接山

条村じょうむらの移定すけさだの山若木わかしぎあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

八

条村じょうむらの移定すけさだの山若木わかしぎあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

小野天神社

条村じょうむらの西にしの方かたの山やまの山若木わかしぎあり

若木わかしぎが侍さむらいの山やまの古流ふるながあり

古人の名なをたてて言ことをたてて言ことをたてて言こと

その直ただと流ながとあふ内川うちがわと唱なふとあり

をりし人群集以。社小寺等と  
いふありむじ日本武志。東征の  
ゆきと云枝系。聖徳十七年  
の初。大納言梅。天正十八年  
加賀利家。南社。南無のとき  
植のとき。云々。徳元二年  
二月廿二日。勅許ありて。小  
寺。小寺。小寺。小寺。小寺。  
小寺。小寺。小寺。小寺。小寺。  
小寺。小寺。小寺。小寺。小寺。

山口親善堂  
少龍社。少龍社。少龍社。少龍社。  
少龍社。少龍社。少龍社。少龍社。  
少龍社。少龍社。少龍社。少龍社。  
少龍社。少龍社。少龍社。少龍社。

箱の池  
箱根。箱根。箱根。箱根。箱根。  
箱根。箱根。箱根。箱根。箱根。  
箱根。箱根。箱根。箱根。箱根。  
箱根。箱根。箱根。箱根。箱根。

堀兼井  
川。川。川。川。川。川。川。川。  
川。川。川。川。川。川。川。川。  
川。川。川。川。川。川。川。川。  
川。川。川。川。川。川。川。川。

車  
車。車。車。車。車。車。車。車。  
車。車。車。車。車。車。車。車。  
車。車。車。車。車。車。車。車。  
車。車。車。車。車。車。車。車。

所  
所。所。所。所。所。所。所。所。  
所。所。所。所。所。所。所。所。  
所。所。所。所。所。所。所。所。  
所。所。所。所。所。所。所。所。

戸田川渡り

中山板橋と浦和との間あり  
いば橋等の名に似てまづ花屋の  
跡を頼とせよと云ふがやうに下の人

御

御霊神社 日本橋に向ふあり  
社に小楸の樹あり其樹より清水を  
出せしと云ふ傳ありの故に小楸の

焼

米坂 樹あり其樹の根を  
この地焼米と云ふ人多く傳へるに  
實は浦和坂といふ

御

御霊寺 日本橋の方あり  
日蓮宗の一寺なり其寺に平和念の  
像あり其像の光國と云ふ

調

調神社 浦和のときあり  
世小月津宮三十三夜と稱はる高月山  
倒家九月十日高社に奉祀する物あり  
なりと社に不あはる然も久きを

子安

子安清水 日本橋あり  
いば早稲も御霊と云はれ古日蓮を  
いば水とて安の音と云ふ時先が妻に  
安をまじりていば小子安の号あり

高

高野神社 大宮の北あり  
大宮の北の山と云ふ山の麓にあり  
高野大宮神社といふ大宮令  
右高野神社を左高野令なり 社に

大宮

大宮水川神社 大宮の北あり  
水川神社の北あり  
水川神社の北あり  
水川神社の北あり

平貞

平貞神社 大宮の北あり  
大宮の北あり  
大宮の北あり  
大宮の北あり

高

高野神社 大宮の北あり  
大宮の北あり  
大宮の北あり  
大宮の北あり

●從一橋四門外邊の表を至王寺邊傳  
漢於流者舊址

神田橋と一橋外との間なり  
世依とて漢於院が宗との元祿の次  
吉野の漢於院は所小ありて大か

荒川 九段田町の東の川にそそぐ  
日雨より少く小橋小架す橋と橋

橋とそそぐ九段邊へ向ふ所の橋と懸架  
橋といふ

田安の意 九段坂の上なり

いなり九段邊へ傳へ流きさかきと世小  
牛が淵といふ

水邊橋

小川町より小川へ出はの橋なり

い橋より少く川下ろ方小神田上水の掛  
橋あり故小橋の名とするれ高きと

右橋も橋といふ同一あり方小三橋橋名  
の社あり上吉の初傳少く年歴詳か

さへ天文年中小山宗小宗氏徳の邊宮  
ともいふこの代佐古ハ二佐村といひりも

後山 一橋神田の意といふ

依橋あり表方圓平橋との間の邊  
星原より山原とすむ小橋とよふあり

蘆川 神田橋下の意を橋がうりあり

此川一町中より上中下南中流あり  
お神田川といふと神田町の北を流る

新橋 一橋の意といふ

新橋は成橋を代へり  
い橋性も、若くは橋なり橋の意あり

あふ橋が池の邊ありて橋中ありといふ  
世宗一橋といふ名を世宗橋といふといふ

意は其の中ふれり志し方より取男二人  
意は其の中ふれり志し方より取男二人

小舟とて扱て流す人ありれは橋と懸架  
志すの橋を種ふりて志すなりお玉が代と

新橋

河原より表方蘆川流の川流小架あり

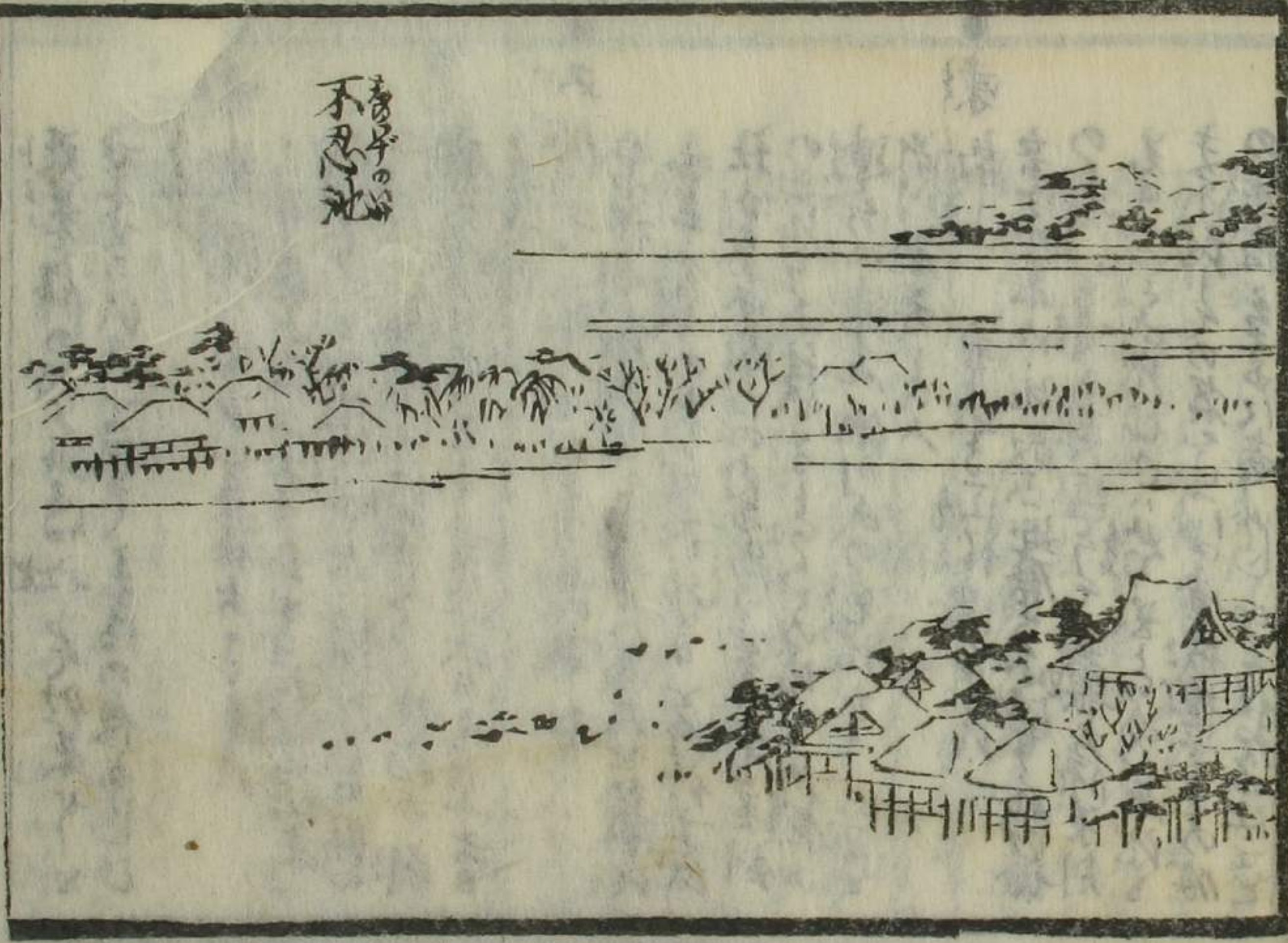
その跡中流三橋架あり小架といふ人の工  
建はる架橋ありは架の地形小架一橋

架橋ありてと架中より架小架ありと

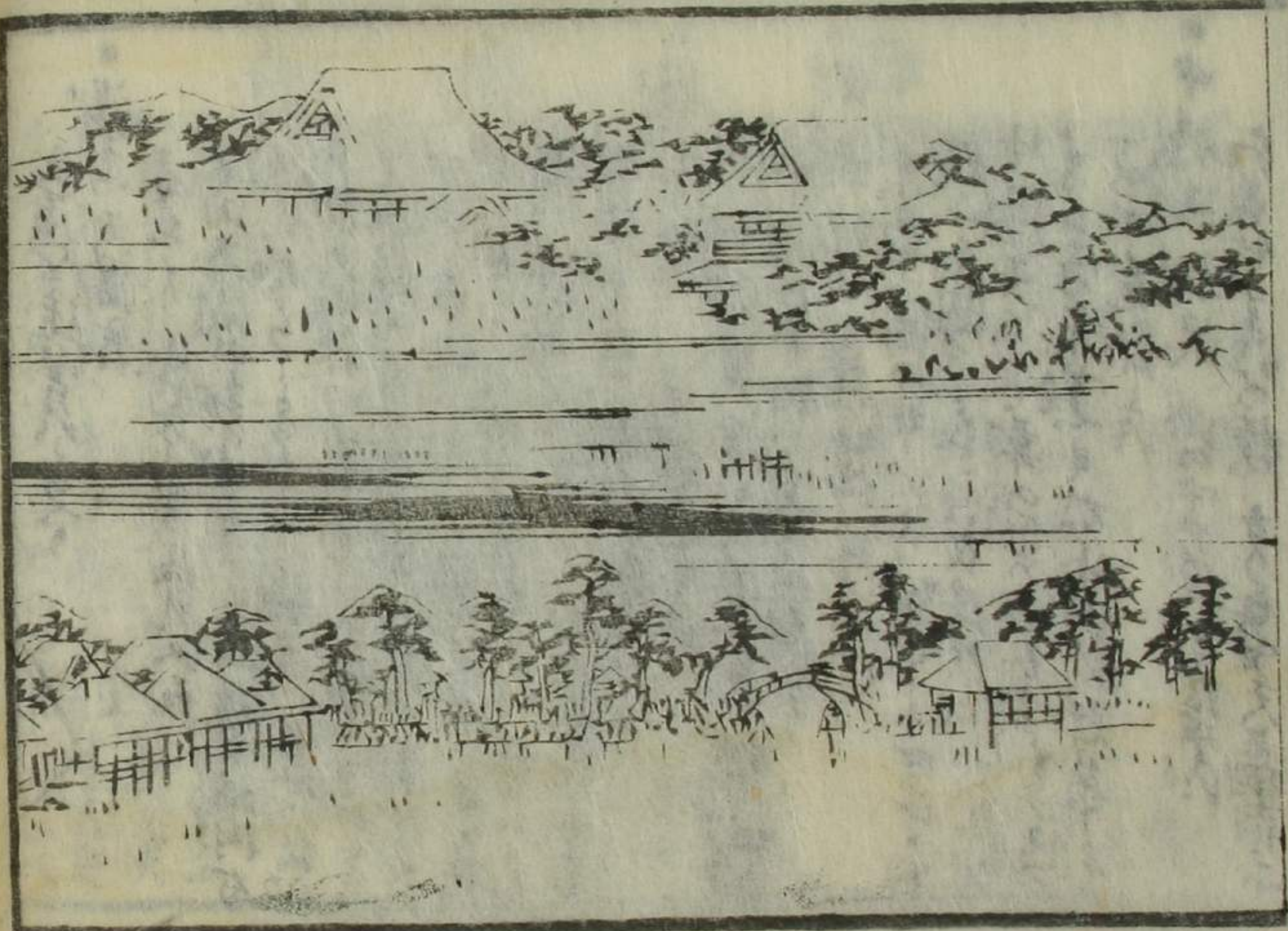




香子の  
不忍池



香子の  
不忍池



香子の  
不忍池





味の美場と

内

雨の景 日本庚申家の良の方あり  
去の五十七て根岸と雷小川小橋一橋の  
おの大樹あり世依と道と此のねと

正

燈寺 本陽山と号は 法皇と所あり  
承徳二年忌堂和尚平刺の神利なり  
は園楓樹多く七晩花のよあは河  
人吟者群捧てその花と書い

圓

光寺 宝鏡と号 根岸の庵と号  
御家の御林なり庭中不庭ありて花の  
以八一町の寺親と号する花と書い  
てこそを美流の樹と名ふと書い堂あり

感

應寺 名瀬と号は 去の二十右  
上院在中門の對あり  
日蓮宗に七字の御人閑基と号する  
元祐年中放ありて名を改めたりが  
文政年中中より故ありてと号と云ふと  
改めり境内楓樹多く美流の一寺親

瑞

林寺  
上院水門のあり小の方あり

日

蓮宗に七甲あり近山の民に  
之の共一なり五七十九年を創開し  
美流院日新上人と号す

月

暮堂 新橋小橋と号す  
感應寺の裏より山と号し  
此の寺院極泉命の権巧を懸いて  
風系と号すは内系と号すは外系と  
号すは下の人々不集今ん燈堂一雨の  
舞と号すも喜時群集多し実と号す  
の月代也と号すも美流と号す月替は夜堂

七

面大の神社  
同而迎命院と号す  
閑山日長十人美流と号す月長若小  
より後坊長と号す

堂

沢  
菅原宗林寺の境内あり  
まご妙林寺の比も号候と号す  
この寺の裏より他と号す

御

鏡の神社  
同而小沢方院と号すあり  
信長院の御と号す小川一高社と号す

の久き方より作建まらぬといふる通法  
御山浄土寺といふは

道 雁山 一名 成山といふ

大田の邊に戸城ありし以出雲の岩の  
此よりともいふ但し実なる地場といふも  
此宅地といふも是れ初て築き置けり  
の昔より小とふ事なる所なり  
築本築末の所なり内宮の御所なり  
瑞小社の夜中の縁に築き置けり  
人通等と稱くといふ一の地を併た  
りといふ

根津御成社 神代石

上野より北の方なり  
宗社ともいふ事なり  
甲府之出雲の地之宮中  
との地と稱りて本社御成社の地  
社地は御成社の地なり  
大観 宗社ともいふ事なり  
光徳寺といふ事なり  
長を寺の横にあり土面沈下  
と云ふ

目録不劫堂

物色はともいふ事なり  
修及本目山の修及寺なり  
像を有て法玉と圓座せり  
意は及のふ不劫の像一  
像と取説とて路名とも  
因是目白不劫といふ事なり

石 釋寺 後山といふ事なり

因西より北にあり  
曹洞宗の寺なり  
林といふ事なり  
意は及のふ不劫の像一  
像と取説とて路名とも  
因是目白不劫といふ事なり

神 明宮 因西より北にあり

文治元年乙未に於此に  
その後よりいふ事なり  
今も猶も其の地あり

富士淺間社 因西にあり

宗社ともいふ事なり  
今も猶も其の地あり

此の位より... 毎年の... 八幡宮... 徳小田の八幡... 文治六年...

八幡宮... 徳小田の八幡... 文治六年...

徳小田の八幡... 文治六年...

平塚神社... 平塚村... 徳小田の八幡...

平塚神社... 平塚村... 徳小田の八幡...

白盤神社... 徳小田の八幡...

飛騨山... 徳小田の八幡...

徳小田の八幡... 文治六年...

徳小田の八幡... 文治六年...

徳小田の八幡... 文治六年...

徳小田の八幡... 文治六年...

の幸も毎小竹の竹とておれ程に  
なれりてまゝの姿の竹とておれ程に  
火の空を越えし所の竹とておれ程に  
なり あり 今備す

王子稲荷社

日此方あり

竹の竹とておれ程に  
祀りての社なりとておれ程に  
又とも常小竹人程とておれ程に  
遊人程とておれ程に  
入方は程とておれ程に  
華の地とておれ程に

金輪寺

得美中とておれ程に

王子持統天皇の御時  
奉申す程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時

松尾樓

實は松尾島なりて松尾樓と云  
毎年十一月の末に松尾島に  
火の松尾島に松尾島に

松尾樓

王子持統天皇の御時  
奉申す程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時

松尾樓

王子持統天皇の御時  
奉申す程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時

赤羽山八幡宮社

古村あり

光寺

月夜に光の心あり

平家山八幡宮社  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時  
今も程に及御時

西後寺

塚山と号

此寺は平河の南にありて其基は古蹟の  
間基ありて寺名西後院也其も同化して

撫

平河の地の下にあり

大向寺は此寺の南にありて其基は古蹟の  
間基ありて寺名大向院也其も同化して

紀

長野神社 此寺の南にあり

命之有るなり 村古 古子 控院 此寺の  
間基ありて寺名古子院也其も同化して

恙

官八幡宮 此寺の南にあり

此寺の南にありて其基は古蹟の  
間基ありて寺名八幡宮也其も同化して

江都近郊名勝一覽



弘化四丁未季春刻成

安政五戊午孟春再版

撰者 松亭金水

畫工 一立齋廣重

# 江都近郊名所覽之圖

此の江都十里四方の名所古蹟神社神廟  
村名をとりて記し其の地をとりて記し  
其の地をとりて記し其の地をとりて記し

南傳馬町三丁目

東都書肆

三河屋善兵衛板

